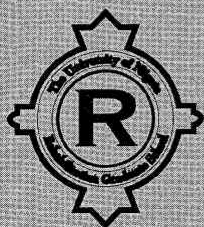


新潟リハビリテーション大学院大学  
平成21年度年報

# YEAR BOOK

## 2009



The University of Niigata Rehabilitation Graduate School

新潟リハビリテーション大学院大学

新潟リハビリテーション大学院大学

平成 21 年度 年報

The University of Niigata Rehabilitation Graduate School

Yearbook 2009

## ご挨拶

学校法人北都健勝学園 理事長  
的場 已知子

本校の業績集を発刊させて頂けます事に、皆様方に心より感謝申し上げます。

どのような研究も、世のため人のために行われています。研究に失敗という言葉は無く、それはすべて目的への過程のひとつと捕え、あまたの努力を日々重ね続ける地道な学問です。本校の業績も、世界の学問体系の中に繋がっています。それを感じつつ、色々な方々に読んで頂ける事を願っております。

## 開学3年目の年報に寄せて

新潟リハビリテーション大学院大学  
学長 大澤 源吾

かつて中学生時代に恩師から、自分の行動をおこすにあたっては、つねにその“目的”を明確にし、それを達成する“目標”を決め、そしてその目標に近づくための“目安”に向けて努力せよと訓えられた。研究の世界でもつねに、長期的展望、中期的目標、そしてさし当たったの短期的目安の解決に向けた研究努力・成果が要求される。

開学3年目を迎えた本学の自己点検・自己評価の一環として「平成21年度年報」が関係各位のご盡力で作成されました。学生教育並びに研究面でのさし当たったの努力の一端が一里塚として記されたものであります。将来、「高次脳機能障害や摂食・嚥下障害の回復を促す医療開発」という大きな成果につながることを祈りつつ、挨拶の言葉とさせていただきます。

新潟リハビリテーション大学院大学 平成 21 年度年報目次

1	大学の基本理念 1) 理念・目標 2) 教育内容の特色	1 1
2	沿革	2
3	組織及び機構 1) 組織図 2) 役職者 3) 教員数 4) 教員一覧	4 6 6 7 - 9
4	学年暦 1) 学年暦・行事	10
5	管理運営 1) 教授会 2) 委員会	12 13 - 21
6	大学院大学の公開と社会貢献 1) 研修会・講演会 2) 社会貢献活動 3) ランチョンセミナー	22 23 24
7	教育活動 1) 教育課程の編成方針と特色 2) どのような人材を育成するのか 3) 教育課程 授業科目担当教員及び対象学生 4) F D	25 26 26 27
8	研究活動 1) 論文 (原著) 2) 論文 (症例報告) 3) 総説 4) 学会発表 5) 研究会発表 6) 学会・研修会等での講演 7) 公開講座等での講演 8) 科学研究費 9) 学位論文指導 10) その他	30 - 49
9	研究費	50
10	図書館 1) 蔵書 2) 年間受入数 3) 利用状況	51
11	学生関係 1) 学生定員 2) 入学者選抜方法 3) 在籍学生数 4) 異動学生数 5) 学生生活	52 - 54

# 1. 大学の基本理念

## 1) 理念・目標

弱者に目を向けた学び

—中・高齢者の介護予防とリハビリテーションを中心として—

### 「理念」

- 当該分野における最先端の知識と技術を有した人材を輩出し、教育研究成果を通して幅広い領域で社会に貢献する。
- 医療・福祉の現場で日夜その職に徹している医療補助職の資質および地位の向上に貢献する。

### 「目標」

- リハビリテーションを機軸とするさまざまな角度から、中・高齢者の医療を基盤とした福祉医療に関する教育研究活動を展開し、その成果を社会に公開し還元する。
- 深い洞察力と科学的データから弱者（患者）の疾患を客観的に把握し、それに対する治療技術を十分に駆使することができ、さらに弱者（患者）の心の痛みを理解しつつ、抱えている問題を軽減できる知識と技術を培い、臨床現場や福祉施設でリーダーとなって活躍できる医療従事者、また大学や専門学校あるいは関係企業等でその力を発揮できる教育・研究者としての人材を養成する。

## 2) 教育内容の特色

研究科、専攻等の名称及び学位の特色

研究科名称：リハビリテーション研究科 [Graduate School of Rehabilitation]

専攻名称：リハビリテーション医療学専攻 [Rehabilitation Medicine]

学位名称：修士（リハビリテーション医療学） [Master of Rehabilitation Medicine]

学位の特色：リハビリテーションを基盤とする摂食・嚥下障害、高次脳機能障害の分野で確固たる専門性を履修した者に与える学位である。

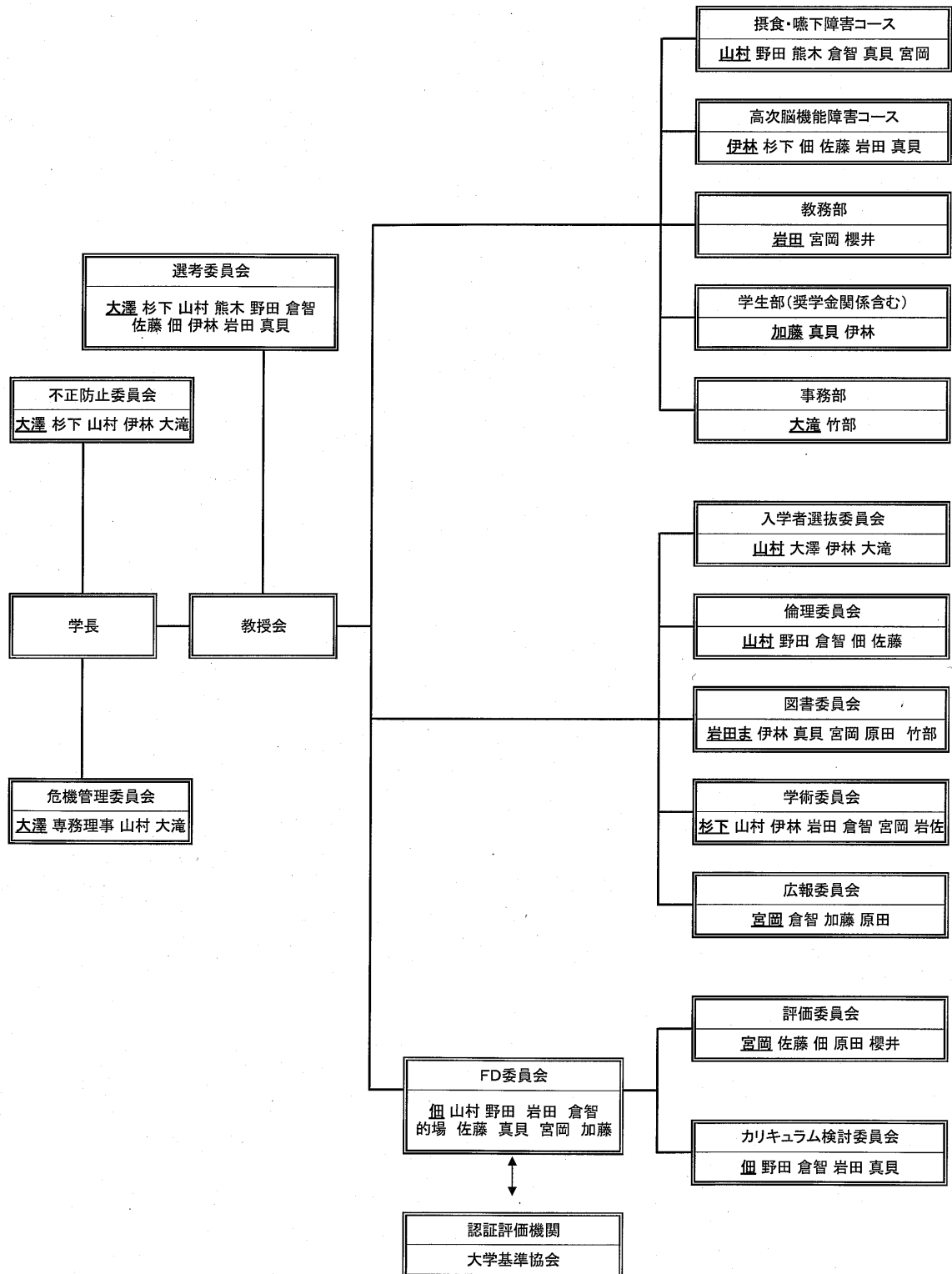
## 2. 沿革

年 月 日	事項
2005 年 4 月	大学院大学設置準備室設置
2006 年 4 月	28 日 「大学設置」4 月認可申請書提出 28 日 「寄付行為」第 1 回書類提出
2006 年 6 月	7 日 「大学設置」4 月認可申請書類に対する意見伝達 30 日 「寄付行為」第 2 回書類提出
2006 年 7 月	7 日 「寄付行為」面接審査参考資料提出 31 日 「大学設置」7 月認可申請書類提出
2006 年 8 月	7 日 「大学設置」7 月認可申請書類追加提出 24 日 「寄付行為」面接審査
2006 年 9 月	20 日 「大学設置」実地面接
2006 年 10 月	6 日 「大学設置」10 月補正書類提出 12 日 「大学設置」10 月補正書類追加提出 27 日 「寄付行為」実地調査
2006 年 12 月	22 日 「大学設置」12 月再補正書類提出
2007 年 1 月	25 日 「大学設置」審査会結果通知 “認可”
2007 年 2 月	5 日 出願資格審査開始
2007 年 3 月	11 日 入学試験 22 日 合格発表
2007 年 4 月	5 日 第一回入学式・開学式 5 日 第一回教授会 9 日 オリエンテーション 10 日 講義開始

年 月 日	事項
2008 年 4 月	3 日 第二回入学式
2008 年 9 月	29 日 第一回修士論文中間発表会
2008 年 10 月	学部設置準備室設置
2009 年 2 月	10 日 第一回修士論文発表会・審査会
2009 年 3 月	19 日 第一回学位授与式
2009 年 4 月	3 日 第三回入学式
2009 年 5 月	26 日 文部科学省大学設置室 医療学部認可申請書類の提出
2009 年 6 月	23 日 文部科学省私学部私学行政課（寄附行為）申請書類提出
2009 年 7 月	3 日 文部科学省私学部私学行政課（寄附行為） 17 日 新潟県庁文書私学課（指定申請） 理学療法士養成校指定申請書類提出 27 日 文部科学省医学教育課（指定申請） 29 日 言語聴覚士養成校指定申請書類提出
2009 年 10 月	30 日 文部科学大臣名正式文書にて大学設置認可通達 言語聴覚士学校として指定の通知を受ける 理学療法士学校として指定の通知を受ける

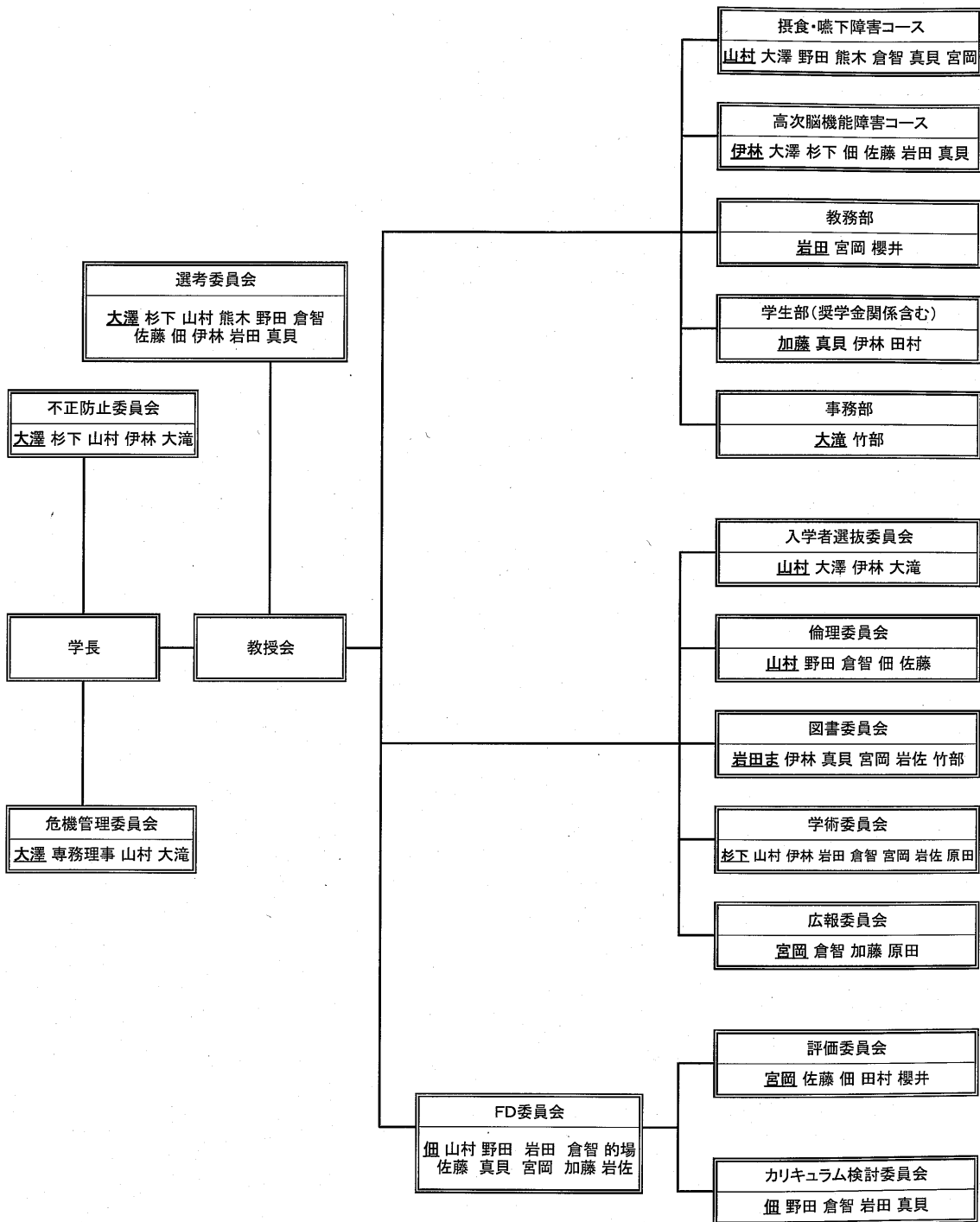
### 3. 組織及び機構

1) 組織図 (平成 21 年 4 月 1 日現在)





(平成21年5月1日現在)



## 2) 役職者

学 長 大澤 源吾  
副 学 長 杉下 守弘  
研究科長 山村 千絵  
事 務 長 大滝 かおり

教務部長 岩田 まな  
学生部長 加藤 豊広

摂食・嚥下障害コース長 山村 千絵（兼務）  
高次脳機能障害コース長 伊林 克彦

## 3) 教員数

専任教員 18 名（2009 年 4 月 1 日現在）

コース別教員数（2009 年 4 月 1 日現在）

コース等	教授	准教授	講師	助教	助手	合 計
高次脳機能障害コース	5 名					5 名
摂食・嚥下障害コース	4 名	1 名				5 名
共通教育	2 名	2 名			4 名	8 名
合 計	11 名	3 名	0	0	4 名	18 名

# 教員一覧

## (1) 専任教員

専任教員一覧			
職位	フリガナ 氏名 ＜就任年月＞	保有学位	担当授業科目
理事長 准教授	マバ シホ 的場 巳知子 ＜平成 19 年 4 月＞	医学士	リハビリテーション心理学
学長 教授	オオザワ ゲンゴ 大澤 源吾 ＜平成 19 年 4 月＞	医学博士	リハビリテーション医療学 医療倫理 内科学 呼吸リハビリテーション学 研究指導（摂食・嚥下） 研究指導（高次脳機能）
副学長 教授	スギノ マヒロ 杉下 守弘 ＜平成 19 年 10 月＞	医学博士	画像診断学 視空間知覚障害学 失語症 失読・失書 認知科学 高次脳機能障害学実習 高次脳機能障害研究実習 研究指導（高次脳機能）
研究科長 教授	ヤマムラ チェ 山村 千絵 ＜平成 19 年 4 月＞	博士（歯学）	摂食・嚥下障害学 摂食・嚥下病態生理学 摂食・嚥下障害研究実習 研究指導（摂食・嚥下）
教授	ツカダ イロハ 佃 一郎 ＜平成 19 年 4 月＞	医学博士	神経心理学 行為・遂行障害 発達障害学 高次脳機能障害評価学 研究指導（高次脳機能）
教授	サトウ シュンヤ 佐藤 舜也 ＜平成 19 年 4 月＞	医学博士	リハビリテーション研究法 高次脳機能障害研究実習 研究指導（高次脳機能）
教授	クマキ カツシ 熊木 克治 ＜平成 19 年 4 月＞	医学博士	神経解剖学 運動機能学 末梢神経学 研究指導（摂食・嚥下）
教授	ノダ タツシ 野田 忠 ＜平成 19 年 4 月＞	歯学博士	口腔介護論 摂食・嚥下発達障害学 摂食・嚥下障害研究実習 研究指導（摂食・嚥下）

専任教員一覧			
職位	フリガナ 氏名 ＜就任年月＞	保有学位	担当授業科目
教授	シガイ トシ 真貝 富夫 ＜平成 20 年 11 月＞	医学博士	顎顔面機能学 摂食・嚥下障害研究実習 研究指導（摂食・嚥下） 研究指導（高次脳機能）
教授	イバシ カチコ 伊林 克彦 ＜平成 19 年 4 月＞	医学博士	認知症 高次脳機能障害学実習 右半球障害学 ケーススタディ 高次脳機能障害学研究実習 研究指導（高次脳機能）
教授	イワ マナ 岩田 まな ＜平成 19 年 4 月＞	博士（医学）	意識・注意障害 高次脳機能障害実習 失認症 ケーススタディ 高次脳機能障害研究実習 研究指導（高次脳機能）
教授	クラチ マサコ 倉智 雅子 ＜平成 19 年 4 月＞	Ph.D.	摂食・嚥下機能検査評価学 摂食・嚥下障害治療計画法 ケーススタディ 摂食・嚥下障害研究実習 研究指導（摂食・嚥下）
准教授	ミヤ岡 サミ 宮岡 里美 ＜平成 19 年 4 月＞	博士（歯学）	頸部・体幹機能評価治療学 摂食・嚥下障害学実習 栄養食事管理学 摂食・嚥下障害研究実習 認知科学 研究指導（摂食・嚥下）
准教授	カノウ トシヒロ 加藤 豊広 ＜平成 20 年 4 月＞	修士（健康科学）	統合医療 東洋医学 鍼灸特殊臨床学

(2) 兼任教員

兼任教員一覧	
フリガナ 氏名 ＜就任年月＞	担当授業科目
カナノ ヨシキ 金内 喜昭 ＜平成19年4月＞	医療倫理
コノ スミ子 小谷 スミ子 ＜平成19年4月＞	摂食・嚥下食品学 摂食・嚥下調理学
ハタノ カズオ 波多野 和夫 ＜平成19年4月＞	前頭葉機能障害学
ヤギ ミル 八木 稔 ＜平成19年4月＞	医療統計学
アキ ハギコ 青木 萩子 ＜平成19年4月＞	老年看護学
シキバ リュウシ 式場 隆史 ＜平成19年4月＞	精神医学
イマフク イチロウ 今福 一郎 ＜平成20年4月＞	視空間知覚障害
サハラ ノブユキ 砂原 伸行 ＜平成19年4月＞	リハビリテーション研究法 高次脳機能障害治療学
アビコ オサム 安孫子 修 ＜平成19年4月＞	高次脳機能障害学
セオ ケンジ 瀬尾 憲司 ＜平成19年4月＞	リスク管理法
ヤマムラ ケンスケ 山村 健介 ＜平成19年4月＞	研究方法論
キト トシキ 木戸 寿明 ＜平成19年4月＞	摂食・嚥下障害学実習 摂食・嚥下訓練治療学
タカハシ ケイオ 高橋 邦丕 ＜平成21年4月＞	リハビリテーション医療学

## 4. 学年歴

### 1) 学年歴・行事

年 月 日	事 項
2009 年 4 月 3 日 (金)	第 3 回入学式 (大学院生 6 名) 新潟リハビリテーション専門学校合同開催
2009 年 4 月 6 日 (月)	新入生オリエンテーション
2009 年 4 月 7 日 (火)	前期授業開始
2009 年 6 月 4 日 (木)	学生健康診断・教職員健康診断
2009 年 7 月 11 日 (土)	夏季休業開始
2009 年 7 月 23 日 (木)	消防訓練
2009 年 8 月 1～2 日 (土-日)	第 14 回 新潟神経言語学セミナー開催
2009 年 8 月 22～23 日 (土-日)	LSVTワークショップ 日本開催
2009 年 9 月 10 日 (木)	夏季休業終了
2009 年 9 月 12 日 (土)	後期授業開始
2009 年 9 月 26 日 (土)	第 I 期入学選考試験
2009 年 9 月 28 日 (月)	修士論文中間発表会
2009 年 11 月 2 日 (月)	文部科学省 設置計画履行状況調査「実地調査」 調査委員 小間 篤 委員 独立行政法人科学技術振興機構 研究主監 蜂須賀 研二 委員 産業医科大学 リハビリテーション医学 教授 随行事務 森友 浩史 文部科学省高等教育局高等教育企画課大学設置室長 山田 泰広 文部科学省高等教育局医学教育課 田畑 潤司 文部科学省高等教育局高等教育企画課大学設置室
2009 年 11 月 14 日 (土)	第 II 期入学選考試験
2009 年 12 月 25 日 (金)	冬季休業開始
2010 年 1 月 7 日 (木)	冬季休業終了

年 月 日	事 項
2010 年 1 月 23 日 (土)	第Ⅲ期入学選考試験
2010 年 2 月 9 日 (火)	修士論文発表会・審査会
2010 年 3 月 12 日 (金)	第 2 回学位授与式
2010 年 3 月 13 日 (土)	第Ⅳ期入学選考試験
2010 年 3 月 22 日 (月)	春季休業開始
2010 年 4 月 10 日 (土)	第Ⅴ期入学選考試験

## 5. 管理運営

### 1) 教授会

教授会	
① 教授会構成員	学長、副学長、研究科長、研究科担当の選任教員
② 主な審議事項及び決定事項等	<p>*大学院の事項</p> <p>(1) 教育課程に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム改革について</li> <li>・長期履修生の履修計画について</li> <li>・TA（ティーチングアシスタント）について</li> <li>・復学後の授業履修と単位認定について</li> <li>・授業科目の履修方法、試験・評価規程における施行細則の改訂</li> <li>・学生便覧・修士論文関係要綱について</li> </ul> <p>(2) 学生の入学及び課程の修了・学位授与に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院生、研究生の入学について</li> <li>・大学院入試について</li> <li>・大学院入学定員の検討</li> <li>・大学院生の研究テーマ、指導教員、研究計画書等審査について</li> <li>・修士論文発表会、論文審査について</li> <li>・大学院生修了判定、学位記授与式について</li> </ul> <p>(3) 教員の選考に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助手人事について</li> <li>・名誉教授規程について</li> </ul> <p>(4) 学生の身分に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休学について</li> <li>・復学について</li> </ul> <p>(5) その他大学院の教育研究に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・留意事項実施状況、文科省実地調査について</li> <li>・認証評価に向けて、中・長期計画</li> <li>・学則変更について</li> <li>・研究費予算案について</li> <li>・戦略的大学連携支援事業について</li> <li>・FD、SD について</li> <li>・管理運営体制（委員会組織）について</li> <li>・大学院授業料改定・特待生制度変更について</li> <li>・年間学事計画予定</li> <li>・図書室規程、オンラインジャーナル整備等について</li> </ul>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神経・言語障害学セミナー、LSVT 講習会開催について</li> <li>・科学研究費、学術研究振興資金等、応募について</li> <li>・文科省からの通知事項報告</li> <li>・外部各種会議報告</li> <li>・内部各種委員会報告</li> </ul> <p>＊学部増設関連事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新潟リハビリテーション大学医療学部設置について</li> <li>・新潟リハビリテーション大学医療学部の学則について</li> <li>・開学までの準備、大学説明会、開学記念行事について</li> <li>・学部入試について</li> <li>・リハビリ体験フェスタについて</li> <li>・研究室配置について</li> </ul>
③ 教授会開催状況	<p>開催状況</p> <p>第 1 回 2009 年 4 月 13 日</p> <p>第 2 回 2009 年 5 月 11 日</p> <p>第 3 回 2009 年 5 月 13 日 (臨時)</p> <p>第 4 回 2009 年 6 月 8 日</p> <p>第 5 回 2009 年 7 月 13 日</p> <p>第 6 回 2009 年 9 月 14 日</p> <p>第 7 回 2009 年 10 月 19 日</p> <p>第 8 回 2009 年 11 月 9 日</p> <p>第 9 回 2009 年 12 月 14 日</p> <p>第 10 回 2010 年 1 月 18 日</p> <p>第 11 回 2010 年 2 月 8 日</p> <p>第 12 回 2010 年 3 月 8 日</p>

## 2) 委員会

(1) 不正防止委員会	
① 委員	<p>委員長 大澤 源吾</p> <p>委 員 杉下 守弘、山村 千絵、伊林 克彦、大滝 かおり</p>
② 開催状況	開催回数 0 回
③ 審議事項	2009 年 10 月「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドラインに基づく体制整備等の実施状況報告書」の作成提出を行った。

(2) 危機管理委員会	
① 委員	委員長 大澤 源吾 委 員 山村 千絵、大滝 かおり
② 開催状況	開催回数 3回 第1回 2009年 5月1日 第2回 2009年 5月18日 第3回 2009年 6月1日
④ 特記事項	世界的に新型インフルエンザが流行を始めたことを受け、本学メーリングリストおよびホームページを通じて、情報提供や注意喚起を行うとともに、本学としての対応策を提示した。

(3) 選考委員会	
① 委員	委員長 大澤 源吾 委 員 杉下 守弘、山村 千絵、熊木 克治、野田 忠、倉智 雅子、佐藤 舜也、佃 一郎、伊林 克彦、岩田 まな、真貝 富夫
② 開催状況	開催回数 1回 第1回 2009年 12月14日
③ 審議事項	2010年度からの大学院の助手体制について
④ 特記事項	学部増設申請に当たり、設置準備委員会主導の下、学部専任教員、非常勤教員を選出依頼し、文科省の教員審査にかけた。このための小委員会は上記とは別に多数回開催された。

(4) 倫理委員会	
① 委員	委員長 山村 千絵 委 員 野田 忠、倉智 雅子、佃 一郎、佐藤 舜也
② 開催状況	委員会開催（メール討議含む）回数 7回 第1回 2009年 4月30日 第2回 2009年 5月11日 第3回 2009年 5月21日 第4回 2009年 7月24日 第5回 2009年 8月7日 第6回 2009年 9月25日 第7回 2009年 11月27日
③ 審議事項	教員、院生、研究生等の研究課題に対する倫理審査の実施、判定結果の調整・通知
④ 特記事項	研究課題のうち、院生の修士論文にかかわるものについては、倫理委員会内の審議のみならず、教授会内において研究指導資格のある

	<p>教員全員で倫理審査を実施している。その審査結果を倫理委員会内で調整して、大学院生に結果を通知するシステムとなっている。</p> <p>(2009 年度修士論文にかかる院生の倫理審査申請は 4 件)</p>
--	---

(5) 入学者選抜委員会	
① 委員	<p>委員長 山村 千絵</p> <p>委 員 大澤 源吾、伊林 克彦、大滝 かおり</p>
② 開催状況	<p>2010 年度大学院入試にかかる委員会開催回数 5 回</p> <p>第 1 回 2009 年 6 月 17 日</p> <p>第 2 回 2009 年 12 月 21 日</p> <p>第 3 回 2010 年 1 月 26 日</p> <p>第 4 回 2010 年 3 月 16 日</p> <p>第 5 回 2010 年 4 月 10 日 (前年度第 V 期入試合否判定等のため)</p> <p>その他に打ち合わせ、メール討議多数あり</p> <p>学部入試についての打ち合わせもあり</p>
③ 審議事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入試日程・スケジュールの調整・決定</li> <li>・出願要件の検討</li> <li>・募集要項決定・要項冊子作成</li> <li>・入試当日担当者の調整・決定</li> <li>・入試実施要項作成</li> <li>・入試の実施</li> <li>・出願資格判定・合否判定・特待生決定・長期履修生認定</li> <li>・その他学生募集全般について</li> </ul> <p>(・学部入試についての検討、援助、試験問題点検等)</p>
④ 特記事項	特になし

(6) 教務部	
① 部員	<p>部 長 岩田 まな</p> <p>部 員 宮岡 里美、櫻井 晶</p>
② 開催状況	<p>シラバス作成時期 (12～ 1 月) に合わせて、メール討議実施</p> <p>進級、修了判定時期 ( 3 月) に合わせて、メール討議実施</p>
③ 審議事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学則に基づき、学生が進級・修了要件を満たしているかについて、研究科長と協議し、判定した。</li> <li>・平成 21 年度学事歴を確認した。</li> <li>・平成 21 年度カリキュラムの確認と調整を行った。</li> <li>・非常勤講師依頼</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開講状況の把握、出席簿記載、成績評価について点検した。</li> <li>・学生の履修状況を把握し、休学者への対応を検討した。</li> </ul>
④ 特記事項	特になし

(7) 学生部 (奨学金関係を含む)	
① 部員	部 長 加藤 豊広 部 員 真貝 富夫、伊林 克彦
② 開催状況	開催回数 3 回 第 1 回 2009 年 9 月 第 2 回 2009 年 12 月 第 3 回 2010 年 2 月
③ 審議事項	・セミナーの内容報告
④ 特記事項	学生部を代表して加藤がセミナーに参加 ①平成 21 年 9 月 10 日 (木) リスクマネジメントセミナー「学生のメンタルヘルス問題と対策」 ②平成 21 年 12 月 9 日～平成 21 年 12 月 10 日 平成 21 年度障害学生修学支援のための教職員研修会 (修了証書あり) ③平成 22 年 1 月 21 日～平成 22 年 1 月 22 日 平成 21 年度学生支援合同フォーラム 第 31 回全国大学メンタルヘルス研究会

(8) 図書委員会	
① 委員	委員長 岩田 まな 委 員 伊林 克彦、真貝 富夫、宮岡 里美、 原田 慎司、竹部 香代子
② 開催状況 及び審議事項	開催回数 3 回 1) 2009 年 6 月 3 日 議題：図書館ネットワーク参加の方向で調整する。 2) 2009 年 7 月 28 日 議題：大学院図書室と専門学校図書室の関係について 3) 2009 年 9 月 29 日 議題：図書室利用規定について 図書検索システム導入の検討 大学連携支援事業における図書館連携

(9) 学術委員会	
① 委員	委員長 杉下 守弘 委 員 山村 千絵、伊林 克彦、岩田 まな、倉智 雅子、 宮岡 里美、岩佐 浩文
② 開催状況	開催回数 1回 第 1回 2009年 4月 13日
③ 審議事項	・「いきいき県民カレッジ」「地域公開講座」「LSVT 研修会」「新潟 神経・言語学セミナー」等の企画・運営を検討した。
④ 特記事項	地域公開講座を“いきいき県民カレッジ”の一講座として位置づけ、 2009年 11月に開催した。LSVT 研修会及び新潟神経・言語学セミナ ーは、2009年 8月に開催した。

(10) 広報委員会	
① 委員	委員長 宮岡 里美 委 員 倉智 雅子、加藤 豊広、原田 慎司、櫻井 晶
② 開催状況	開催回数 12回 第 1回 2009年 4月 7日 (㊟学園広報部会) 第 2回 2009年 4月 13日 第 3回 2009年 6月 5日 (㊟学園広報部会) 第 4回 2009年 7月 1日 (㊟学園広報部会) 第 5回 2009年 8月 25日 (㊟学園広報部会) 第 6回 2009年 9月 15日 第 7回 2009年 10月 21日 (㊟学園広報部会) 第 8回 2009年 11月 25日 (㊟学園広報部会) 第 9回 2009年 12月 24日 (㊟学園広報部会) 第 10回 2010年 1月 28日 第 11回 2010年 2月 24日 第 12回 2010年 3月 17日 広報活動は、必要に応じ、随時打ち合わせやメール討議を頻回に行っている。また、学園広報部会には毎回出席し、連携して活動している。 活動状況は毎回の教授会で報告し、その議を経ている。
③ 審議事項	・今年度の広報活動の基本計画の策定 ・学部増設に関しての市民アンケートの実施と分析 ・学部増設に伴う広報PR活動（「設置認可申請中」の告知） ・各種広報媒体を利用した大学広報の計画と実施 ・学生募集活動の具体的計画と実施

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校訪問の計画と実施，大学説明会の開催，進学相談会への参加</li> <li>・ホームページのリニューアル</li> <li>・「共生型大学連携」（代表：新潟青陵大学）への参加</li> <li>・ランチョンセミナーの企画・運営</li> <li>・スキルアップセミナー、いきいき県民カレッジ等 本学が主催/参加する公開講座の広報</li> <li>・新潟リハビリテーション大学広報委員会規程の立案</li> </ul>
④ 特記事項	詳細は、毎回の教授会にて口頭と文書にて報告している。また、必要に応じ、教職員専用メーリングリストを通じて、随時報告、連絡している。

(11) FD 委員会	
① 委員	委員長 佃 一郎 委 員 山村 千絵、野田 忠、倉智 雅子、佐藤 舜也、 真貝 富夫、的場 已知子、宮岡 里美、加藤 豊広
② 開催状況	開催回数 1回 第1回 2009年5月11日
③ 審議事項	①20年度活動総括 ②法人の管理組織改正に伴う新FD委員会の構成の件 ③FD委員会規約の件 ④カリキュラム委員会 ⑤2009年度の活動計画・研修会テーマの件
④ 特記事項	・FD夏季研修会開催 2009年7月28日（火） 議題：ハラスメントについて 今回の研修会は法人全体（教員・職員）を対象とした。

(12) 評価委員会	
① 委員	委員長 宮岡 里美 委 員 佃 一郎、佐藤 舜也、櫻井 晶、 原田 慎司（田村 裕に交代）
② 開催状況 及び審議事項	開催回数 7回 第1回 2009年4月3日 <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の方針検討</li> <li>・評価委員会規程の改訂について検討</li> <li>・平成20年度「学生による授業評価」の実施についての検討</li> <li>・平成20年度「自己点検・自己評価」についての検討</li> </ul>

	<p>第 2 回 2009 年 4 月 28 日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価委員会委員長、(財)大学基準協会主催「大学評価実務説明会」への参加</li> </ul> <p>第 3 回 2009 年 5 月 11 日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第三者評価を受ける時期の検討 プロセスの確認</li> <li>・第 1 案「H24 年度」モデル、第 2 案「H25 年度」モデルを提案</li> <li>・大学評価の視点をも参考にしながら、今後の大学運営及び教育・研究を進めるよう、教授会で提案</li> </ul> <p>第 4 回 2009 年 9 月 5 日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 20 年度「年報」作業手順を再検討</li> </ul> <p>第 5 回 2009 年 10 月 30 日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 20 年度「年報」作業終了</li> <li>・平成 21 年度前期分「学生による授業評価」の実施について</li> </ul> <p>第 6 回 2009 年 12 月 14 日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学基準協会からの出向依頼について</li> <li>・今年度の自己点検・自己評価について</li> </ul> <p>第 7 回 2009 年 1 月 18 日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 23 年以降の大学認証評価システムの確認</li> <li>・新潟リハビリテーション大学「自己点検・自己評価委員会」の準備</li> <li>・試案「自己点検・自己評価委員会規程」の検討</li> <li>・提案（次年度）：ワーキング委員会等の設置、委員の研修への参加</li> </ul>
③ 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・審議事項はすべてその後の教授会において報告し、その議を経ている。</li> </ul>

(13) カリキュラム検討委員会	
① 委員	<p>委員長 佃 一郎</p> <p>委 員 野田 忠、岩田 まな、真貝 富夫、倉智 雅子</p>
② 開催状況	開催回数 1 回 平成 21 年 6 月 8 日
③ 審議事項	カリキュラムのスリム化に伴う、担当教員の配置について
④ 特記事項	カリキュラムの見直しにより大幅な単位数の削減が可能となった

(14) 教務準備委員会 (学部増設準備)	
① 部員	<p>委員長 岩田 まな</p> <p>委 員 宮岡 里美、櫻井 晶、田村 裕、松林 義人、 原田 慎司、鈴木 真司、竹部 香代子 (後に長谷部に交代)</p>
② 開催状況及び審議事項	<p>第1回 平成21年12月21日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 学生便覧作成にむけて</li> <li>② 講義概要作成に向けて</li> <li>③ 時間割、学事暦作成に向けて</li> <li>④ 資格取得体制の整備</li> </ul> <p>第2回 平成22年1月12日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 学生便覧作成にむけて</li> <li>② 履修届けについて</li> <li>③ 講義概要作成進展状況</li> <li>④ 次回までのタイムスケジュール確認</li> </ul> <p>第3回 平成22年1月25日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 学生便覧の訂正箇所検討</li> <li>② シラバスの集まり具合について</li> <li>③ 担任制をとるかどうかにについての意見調整</li> <li>④ 仕事の分担</li> </ul> <p>第4回 平成22年2月3日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 学生便覧進展状況</li> <li>② フレッシュマンセミナーⅡの内容について</li> <li>③ シラバスの集まり具合</li> <li>④ 教科書一覧表</li> <li>⑤ 見学実習先について</li> <li>⑥ 大学に必要な施設の検討→新潟医療福祉大見学 (2月中)</li> <li>⑦ 大学のオリエンテーションの内容検討</li> </ul> <p>第5回 平成22年2月8日 (学生部と共同ミーティング)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 大学オリエンテーション案 <ul style="list-style-type: none"> <li>i) 学生生活全般 ii) 教務関連全般</li> <li>iii) 実習について iv) 図書館利用</li> <li>v) 専攻別オリエンテーションについて</li> <li>vi) 校内見学</li> </ul> </li> <li>② 担任制にするかゼミ制にするかについて</li> </ul> <p>第6回 平成22年2月17日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 学生便覧</li> </ul>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>②講義概要</li> <li>③フレッシュマンセミナー</li> <li>④教科書</li> <li>⑤選択科目</li> <li>⑥担任制（担任と副担任の2人体制とする）</li> </ul>
第7回	<p>平成22年 2月24日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①学部説明会試案検討 担当決定</li> <li>②4月2日のオリエンテーションの内容検討</li> </ul>
第8回	<p>平成22年 3月 9日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①新入生オリエンテーションの打ち合わせ 内容と担当者決定</li> <li>②大学の教務にST教員不足 STクラスアドバイザーの件</li> </ul>
第9回	<p>平成22年 3月23日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①学生便覧 補足、修正</li> <li>②オリエンテーションタイムスケジュール調整</li> <li>③クラスアドバイザー人選</li> </ul>

## 6. 大学院大学の公開と社会貢献

### 1) 研修会／講演会

#### (1) 第14回 新潟神経・言語障害学セミナー

会場 岩船広域教育情報センター 視聴覚ホール

期日 平成21年8月1日(土)～2日(日)

時間 9:00～16:10 (両日共)

講師 1日目 矢守 麻奈 先生 大阪河崎リハビリテーション大学 教授

2日目 本村 暁 先生 御所病院 副院長

内容 1日目 矢守 麻奈 先生

1コマ目 摂食嚥下機能と高次脳機能の関連

2コマ目 摂食嚥下機能の評価法～早期発見・早期対応を目指して～

3コマ目 高次脳機能障害のある方の摂食嚥下リハビリテーション

2日目 本村 暁 先生

1コマ目 高次脳機能障害を理解しよう

2コマ目 失語症の臨床Ⅰ

3コマ目 失語症の臨床Ⅱ

#### (2) LSVTワークショップ (日本開催)

会場 夕映えの宿汐美荘

期日 平成21年8月22日(土)～23日(日)

時間 1日目 8:30～18:00

2日目 9:30～16:45

講師 Lorraine Olson Raming 教授

Cynthia Fox 教授

内容 <1日目>

受付

試験 (受講前テスト)

講義

<2日目>

受付

講義

認定試験

模擬訓練 (実際のボランティア患者)

まとめ、質疑応答

(3) 地域公開講座（いきいき県民カレッジ登録講座）

会場 新潟リハビリテーション大学院大学

期日 平成 21 年 11 月 27 日（金）

時間 14：40～16：10

講師 真貝 富夫 先生（新潟リハビリテーション大学院大学 教授）

内容 味の不思議・のど越しの味

(4) 地域公開講座（いきいき県民カレッジ登録講座）

会場 新潟リハビリテーション大学院大学

期日 平成 21 年 12 月 3 日（木）

平成 21 年 12 月 10 日（木）

時間 16:20～17:50

講師 安光輝 先生 （上海中医薬大学 鍼灸推拿学部 講師）

内容 中国伝統養生法「六字訣」を学び、健康体操で首・肩の凝り、痛みなどを改善し、臓腑の疾病を予防します。

2) 社会貢献活動

「こっこ」

代表 岩田 まな 教授

目的

1) 学生の臨床実習の場を提供する

①大学院学生が学内の実習施設で臨床実習ができる

②専門学校の学生には、将来なるべき ST の職種を見学させて自覚を促し、  
motivation を向上させる。

2) 教員の研究の場とする

実践的研究の場を提供する

3) 地域貢献の一環とする

①言語・高次脳機能障害に関する相談、評価

②発達障害の早期発見と治療的関わりの場を提供する

③高次脳機能障害患者、運動障害性構音障害患者の訓練の場を提供する

対象

i. 子供の言語発達や全体的な発達に不安を持っている方

ii. 子供、あるいは成人の方の発音についての相談

iii. 脳卒中や交通事故などの後の言語障害

iv. 高次脳機能障害をお持ちの方

v. 認知症が心配な方

### 3) ランチョンセミナー

#### 第13回大学院ランチョンセミナー

日時 7月13日(月) 12:15~12:55

場所 大学院棟 サロン教室

話題 「摂食・嚥下のしくみ入門から嚥下食開発まで」

講師 山村千絵

#### 第14回大学院ランチョンセミナー

日時 9月14日(月) 12:15~12:55

場所 大学院棟 サロン教室

話題 「霊長類学が人コミュニケーションに与えた功績」

講師 佃一郎

## 7. 教育活動

### 1) 教育課程の編成方針と特色

本大学院の目指すものは、近年中・高年で急速に増加している摂食・嚥下障害や高次脳機能障害に罹患し苦しんでいる患者に対し、リハビリテーションの立場から援助を行える有能な医療従事者及び研究者を育成するというものであり、そのための教育カリキュラムとなっている。

#### (1) 教育課程の基本構成

教育課程は「共通基礎科目」、「専門基礎科目」、「専門科目」の3つに分かれ、その多くは1年次で履修する。

「共通基礎科目」では、主にリハビリテーションと医療を軸とした人間尊重を、そして近年注目されている統合医療もテーマの一部とし、専門基礎科目や専門科目を学ぶための基礎知識を得ることを目的としている。

「専門基礎科目」では、中・高年のリハビリテーション医療をコンセプトとし、身体的・精神的に罹患している弱者(患者)を理解し援助を行うために必要な基礎科目を習得する。摂食・嚥下や脳の機能的な側面についての基礎的な知識を得る為の「神経解剖学」や、中・高年の患者が抱えるリスク及びその対処法を学ぶ「リスク管理法」等々である。

「専門科目」では、共通基礎科目、専門基礎科目で履修した知識を基に、摂食・嚥下障害コースと高次脳機能障害コースに関するできるだけ多くの科目の中から、学生が学びたい科目を自由に学べる選択制となっている。

尚、学生が希望したコースへは、1年次12月より専攻する。

この2つのコースに分かれた後は、弱者(患者)が抱えている具体的な諸問題に直接対応できる評価法や治療法など実践的色合いの濃い科目を習得していく。例えば、各コースに専門科目として、「摂食・嚥下障害実習」や「高次脳機能障害実習」が設けられている。

#### (2) 研究実習

1年次の1～3月または、2年次の4～6月に、コース別の「研究実習」を行っている。これらの実習は、基本的には修士論文を作成するための実習として位置づけられている。

## 2) どのような人材を育成するのか

本学は、リハビリテーションを機軸とする様々な角度から、中・高年者が抱えている身体的及び精神的課題に対し、深い知識と技術を培った医療従事者及び教育者・研究者の養成を目的としている。本学で養成する主な人材は、以下の通りである。

### (1) 摂食・嚥下障害コース

主として摂食・嚥下障害（食べたり飲み込むことがうまくいかない）患者に対し、

- ① 病院・老人保健施設・特別養護老人ホーム・在宅等の臨床現場において、迅速な評価や QOL 向上のために最善のアプローチを行うことができ、リーダー的役割を担う医療従事者。
- ② 教育現場あるいは食品・医療関係企業等で、新しい評価方法や訓練方法を研究したり、家庭や介護施設等で利用可能な嚥下食等の開発ができる想像力豊かな教育・研究者。

### (2) 高次脳機能障害コース

主として高次脳機能障害（認知症、失語症、失認症、記憶障害など）の患者に対し、

- ① 病院・老人保健施設・特別養護老人ホーム・在宅等の臨床現場において、適切な評価やリハビリテーションを行い、さらに心理的サポートも充分考慮できる、より高度な医療従事者。
- ② 機能改善のためのアプローチ方法や、AAC（代替コミュニケーション）などの良好な人間関係の修復などに関する開発および教育等に携わる教育・研究者。

## 3) 教育課程

### (1) 授業科目担当教員及び対象学生（別表参照）

### (2) 大学院導入教育

修士論文ゼミ（平成 21 年 5 月から開講）

- ・ 文献抄読会
- ・ 基礎英語
- ・ 修士論文作成マニュアル配布

## 4) F D

### (1) 学生による授業評価の実施

本学では、教員の教育力を高めるための一環として、「学生による授業評価」を全ての授業に対して実施している。授業評価を実施することで、学生が積極的に授業へ参加し、学習意欲を高めることにも繋がっている。また、授業アンケートの結果は各教員へフィードバックし、教員からもコメントを返してもらっている。その学生と教員の双方からの自由な意見は、それ以降の授業改善に反映させるように組織的に取り組んでいる。

### (2) 学内F D活動の実施

#### ① 平成 21 年度 第 1 回 F D 研修会

期日 平成 21 年 7 月 28 日 (火)

時間 10:00～15:00

内容 「ハラスメントについて」

- ・アカデミック・ハラスメント防止委員会設置基準
- ・アカデミック・ハラスメント相談窓口設置基準
- ・教職員セクシュアル・ハラスメント防止等対策要綱
- ・セクシュアル・ハラスメントをなくすために職員が認識すべき事項についての指針

3) - (1) 授業科目担当教員及び対象学生

授業科目の名称	単位数	授業形態	担当教員
共通基礎科目	計 8 単位		
リハビリテーション医療学	2	講義 (必修)	大澤 源吾・高橋 邦丕
医療倫理	2	講義 (必修)	大澤 源吾・金内 喜昭
リハビリテーション心理学	1	講義 (必修)	的場 已知子
統合医療	1	講義 (必修)	加藤 豊広
医療統計学	1	講義 (必修)	八木 稔
研究方法論	1	講義 (必修)	山村 健介
専門基礎科目	計 9 単位		
神経解剖学	1	講義 (必修)	熊木 克治
リスク管理法	1	講義 (必修)	瀬尾 憲司
神経心理学	1	講義 (必修)	佃 一郎
精神医学	1	講義 (選択)	式場 隆史
内科学	1	講義 (選択)	大澤 源吾
運動機能学	1	講義 (選択)	熊木 克治
末梢神経学	1	講義 (選択)	熊木 克治
東洋医学	1	講義 (選択)	加藤 豊広
鍼灸特殊臨床学	1	講義 (選択)	加藤 豊広
専門科目	計 14 単位		
リハビリテーション研究法	2	講義 (選択)	佐藤 舜也・砂原 伸行
顎顔面機能学	1	講義 (選択)	真貝 富夫
老年看護学	1	講義 (選択)	青木 萩子
高次脳機能障害学	1	講義 (選択)	安孫子 修
摂食・嚥下障害学	1	講義 (選択)	山村 千絵
認知症	1	講義 (選択)	伊林 克彦
頸部・体幹機能評価治療学	1	講義 (選択)	宮岡 里美
呼吸リハビリテーション学	1	講義 (選択)	大澤 源吾
意識・注意障害	1	講義 (選択)	岩田 まな
画像診断学	1	講義 (選択)	杉下 守弘
行為・遂行障害	1	講義 (選択)	佃 一郎
発達障害学	1	講義 (選択)	佃 一郎
視空間知覚障害学	1	講義 (選択)	今福 一郎 杉下 守弘



授業科目の名称	単位数	授業形態	担当教員
専門科目(摂食・嚥下障害コース)	計 23 単位		
摂食・嚥下障害学実習	3	実習 (必修)	木戸 寿明・宮岡 里美
摂食・嚥下機能検査評価学	2	講義 (必修)	倉智 雅子
摂食・嚥下障害治療計画法	2	講義 (必修)	倉智 雅子
口腔介護論	1	講義 (必修)	野田 忠
摂食・嚥下訓練治療学	2	講義 (必修)	木戸 寿明
摂食・嚥下発達障害学	1	講義 (必修)	野田 忠
摂食・嚥下病態生理学	1	講義 (必修)	山村 千絵
栄養食事管理学	1	講義 (必修)	宮岡 里美
摂食・嚥下食品学	1	講義 (必修)	小谷 スミ子
摂食・嚥下調理学	1	講義 (必修)	小谷 スミ子
ケーススタディ	2	講義 (必修)	倉智 雅子
摂食・嚥下障害研究実習	2	実習 (必修)	山村 千絵・野田 忠 倉智 雅子・宮岡 里美 真貝 富夫
研究指導 (修士論文)	4	演習 (必修)	摂食・嚥下障害コース 専任教員
専門科目(高次脳機能障害コース)	計 23 単位		
高次脳機能障害学実習	3	実習 (必修)	伊林 克彦・岩田 まな
高次脳機能障害評価学	2	講義 (必修)	佃 一郎
高次脳機能障害治療学	2	講義 (必修)	砂原 伸行
前頭葉機能障害学	1	講義 (必修)	波多野 和夫
右半球障害学	1	講義 (必修)	伊林 克彦
記憶障害	1	講義 (必修)	武田 克彦
失語症	1	講義 (必修)	杉下 守弘
失読・失書	1	講義 (必修)	杉下 守弘
失認症	1	講義 (必修)	岩田 まな
認知科学	2	講義 (必修)	杉下 守弘・宮岡 里美
ケーススタディ	2	講義 (必修)	伊林 克彦、岩田 まな
高次脳機能障害研究実習	2	実習 (必修)	杉下 守弘・佐藤 舜也 伊林 克彦・岩田 まな
研究指導 (修士論文)	4	演習 (必修)	高次脳機能障害コース 専任教員

## 8. 研究活動

### 1) 著書

#### 【摂食・嚥下障害コース】

- ・ 山村千絵 (分担執筆) (小椋秀亮 監修)

「歯学教育支援システム CBT 練習問題」生命科学 (人体の構造と機能)・臨床歯学教育 (口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患)

アルプ (株), 2009.

(全国歯科大学, 大学歯学部)に納入する CD-ROM 教材,

担当部分は組織, 循環器系, 感覚器系, 消化器系, 泌尿器系, 血液・造血器・リンパ網内系)

- ・ 倉智雅子 (分担執筆)

藤田郁代監修, 熊倉/小林/今井編集: シーズ 標準言語聴覚障害学「発声発語障害学」

第 1 章 音声障害. p. 31-39, 医学書院, 2010.

#### 【高次脳機能障害コース】

- ・ 伊林克彦 (分担執筆)

藤田郁代監修: 藤田編集: シーズ 標準言語聴覚障害学「言語聴覚障害学概論」

第 2 章 言語とコミュニケーション. p. 21-27, 医学書院, 2010.

### 2) 訳書

#### 【高次脳機能障害コース】

- ・ 佃 一郎 監訳, 岩田光兒, 岩田まな訳

C. M. Shore 著

言語発達ってみんな同じ? - 言語獲得の多様性を考える -

学苑社, 2009.

### 3) 論文 (原著 original)

#### 【摂食・嚥下障害コース】

- ・ 櫻井 晶, 田村 裕, 山村千絵:

加齢に伴う舌体性感覚閾値の変化.

新潟歯学会雑誌, 39(2): 43-51, 2009.

### <抄録>

摂食・嚥下リハビリテーションの現場では、運動機能回復を目的としたリハビリテーションがほとんどで、感覚機能回復を目的としたものは少ない。また、加齢に伴う口腔体性感覚の変化について、定量的な評価を行った研究もほとんどない。

本研究は、食塊形成や食物の物性、位置、形状などの認知に重要な役割を果たす舌背中央部の体性感覚の鋭敏度について、若年者と高齢者と比較することを目的として実施した。測定は触覚閾値、二点識別閾値水平方向・矢状方向、形状識別の三種類を行った。

その結果、触覚閾値(若年群 $0.035 \pm 0.013$  g, 高齢群 $0.141 \pm 0.091$  g (平均値 $\pm$ SD)), 二点識別閾値(水平方向: 若年群 $3.00 \pm 1.09$ mm, 高齢群 $4.47 \pm 0.96$ mm, 矢状方向: 若年群 $5.83 \pm 1.52$ mm, 高齢群 $7.04 \pm 1.96$ mm)は、ともに高齢群で有意に高かった。さらに形状識別正答率(若年群 $78.00 \pm 16.31\%$ , 高齢群 $58.24 \pm 13.39\%$  (平均値 $\pm$ SD))は、高齢群で有意に低かった。

本研究により、加齢に伴い舌背中央部の触覚、二点識別覚や形状識別覚は低下することがわかった。この原因として加齢による舌粘膜組織の生理的变化や感覚中枢をはじめとする中枢神経系の機能低下が関与していると考えられる。高齢者は一般に咀嚼や嚥下において不利な条件下にあることが示唆される。

### 【論文紹介サイトのご案内】

全文 [PDF] [www.dent.niigata-u.ac.jp/nds/journal/392/392\\_43.pdf](http://www.dent.niigata-u.ac.jp/nds/journal/392/392_43.pdf)

掲載誌(目次)紹介

<http://www.dent.niigata-u.ac.jp/nds/journal/392/index-j.html>

### ・田村 裕, 櫻井 晶, 山村千絵:

口腔粘膜水分量と唾液分泌量の比較および保湿剤が唾液分泌量に及ぼす効果。

新潟歯学会雑誌, 39(2): 35-42, 2009.

### <抄録>

嚥下リハビリテーションを含む口腔治療の現場では、口腔湿潤度を知ることは、治療計画を立てる上で有益である。そのため口腔粘膜水分量や唾液分泌量が測定されているが、両者の関係性は不明である。本研究は両者の関係を調べることと、2種類の保湿剤が唾液分泌量に及ぼす効果を知ることを目的に実施した。

研究は、口腔乾燥症状を呈する疾患がない健康な成人男女20名を用いて行った。最初に、口腔水分計(ムーカス®)による口腔粘膜水分量とワッテ法による唾液分泌量を継時的に同時測定することにより両者を比較し、関連が見られるか調べた。

次に、口腔湿潤度を高めるために、臨床現場で使用されている2種類の保湿剤(ハニーウェット®とメンバーズ洗口液®)の効果を継時的に比較し、各々の保湿効果の特徴から使用目的の明確化を試みた。

安静時の口腔粘膜水分量と唾液分泌量には相関は認められなかった。このことから口腔湿潤度は、簡易的に測定できる口腔粘膜水分量のみでは判定しにくいことが示唆された。

保湿剤の実験では、どちらの保湿剤も、水道水刺激時と比べ有意に唾液分泌量が増加

した。さらに、唾液分泌量の継時的変化を見ると、ハニーウエット®は刺激直後に分泌量が急増する特徴があり、メンバーズ洗口液®は刺激後、分泌量増加の持続が長いという特徴が見られた。使用目的として、口腔乾燥が重度で食事前などに即効を期待する場合にはハニーウエット®を、常時、口呼吸で口腔内が乾燥してしまう場合などにはメンバーズ洗口液®が適すると考えられた。

【論文紹介サイトのご案内】

全文 [PDF] [www.dent.niigata-u.ac.jp/nds/journal/392/392\\_35.pdf](http://www.dent.niigata-u.ac.jp/nds/journal/392/392_35.pdf)

掲載誌（目次）紹介

<http://www.dent.niigata-u.ac.jp/nds/journal/392/index-j.html>

- Junichi Kitagawa, Kazuharu Nakagawa, Momoko Hasegawa, Tomoyo Iwakami, Tomio Shingai, Yoshiaki Yamada, and Koichi Iwata:

Facilitation of reflex swallowing from the pharynx and larynx.

J Oral Sci., 51(2): 167-171, 2009.

[Abstract]

To evaluate the cooperative effect of afferent signals from the pharynx and larynx on reflex swallowing, the interactive effect of afferent signals from the pharyngeal branch of the glossopharyngeal nerve (GPN-ph) and superior laryngeal nerve (SLN) was analyzed in detail in urethane-anesthetized rats. The electromyographic activity of the mylohyoid muscle was recorded as an indicator of swallowing activity. The onset latency of reflex swallowing was measured to evaluate the effects of electrical stimulation of these nerves, and found to become shorter following an increase in the GPN-ph and/or SLN stimulus frequency. During simultaneous electrical stimulation of the GPN-ph and SLN (frequency: 5-10 Hz, intensity: 30  $\mu$ A, duration: 1.0 ms for each), the onset latency of reflex swallowing became shorter than that for stimulation of each nerve independently. The present findings suggest that spatiotemporal summation of afferent signals from the GPN-ph and SLN results in an increase of motoneuronal activity in the medullary swallowing center, thus enhancing reflex swallowing.

【論文紹介サイトのご案内】

全文 [PDF] [jos.dent.nihon-u.ac.jp/journal/51/2/167.pdf](http://jos.dent.nihon-u.ac.jp/journal/51/2/167.pdf)

- Yutaka Miura, Yuji Morita, Hideki Koizumi, and Tomio Shingai:

Effects of taste solutions, carbonation, and cold stimulus on the power frequency content of swallowing submental surface electromyography.

Chem. Senses, 34(4): 325-331, 2009.

[Abstract]

This study explored the effects of 5 taste solutions (citric acid, sucrose, sodium chloride, caffeine, and sodium glutamate) versus water on the power frequency content of

swallowing submental surface electromyography (sEMG). Healthy subjects were presented with 5 ml of each of 5 tastants and water. Data were collected in 3 trials of the 5 tastants and water by using submental sEMG, which was then subjected to spectral analysis. Sour and salt taste solutions increased the spectrum-integrated values of the total power components. The spectrum-integrated values of low-frequency power (below 10 Hz) in the salt taste trial significantly increased, whereas those of high-frequency power (above 10 Hz) in the sour taste trial tended to increase. Neither pleasantness nor intensity of taste was related to these changes. This study also explored the effects of carbonation and cold stimulus on the power frequency content of continuous swallowing sEMG for 60-ml solutions. Carbonation significantly increased the spectrum-integrated value of the total power components by significantly increasing the high-frequency content. Cold stimulus significantly decreased the low-frequency content. In summary, this study reveals that taste, carbonation, and cold stimulus have qualitatively different influences on the power frequency content of swallowing sEMG.

【論文紹介サイトのご案内】

全文 [PDF] <http://chemse.oxfordjournals.org/cgi/content/full/bjp005v1>

→ 右上欄” FREE Full Text (PDF)” へ

- ・ Y. Miyaoka, I. Ashida, S. Kawakami, and S. Miyaoka:

Applicability of piezoelectric sensors for speech rehabilitation.

Journal of Medical Engineering and Technology, 33(4): 328-33, 2009.

[Abstract]

The applicability of piezoelectric sensors for speech rehabilitation was examined by setting vocalizing tasks for seven healthy young adults (four men and three women). A piezoelectric sensor was attached to the front of the neck and each seated subject was instructed to vocalize /a/ with subjective low and high tones and /pa/, /ta/, and /ka/ with a subjective middle tone. The three major findings were: (1) slow potential changes recorded at the start of these tasks were followed by rapid changes; (2) the tasks did not differ in the average range of the slow changes; (3) female subjects had higher average frequencies of rapid changes than male subjects. The frequencies and phases of the rapid changes paralleled the sound waves recorded in the neck during the tasks. Swallowing tasks verified the appropriateness of the recording system. The advantages of using piezoelectric sensors in the clinic are discussed.

【論文紹介サイトのご案内】

全文 [PDF]

<http://www.informaworld.com/smpp/content~db=all~content=a910603766>

- I. Ashida, S. Miyaoka and Y. Miyaoka:

Comparison of video-recorded laryngeal movements during swallowing by normal young men with piezoelectric sensor and electromyographic signals.

Journal of Medical Engineering and Technology, 33(6): 496-501, 2009.

[Abstract]

The movement of the larynx in five young men during the swallowing of a liquid was examined by simultaneously recording a video-movie, the trajectory of a piezoelectric sensor, and the surface electromyogram of the suprahyoid muscles (SH). The movies revealed swallowing was associated with four characteristic spatial points of laryngeal movement: (1) a slight movement in the superoposterior direction ( $1.9 \pm 1.2$  s; mean  $\pm$  SD of the time elapsed after the command to swallow was issued); (2) the initiation of anterosuperior elevation ( $2.3 \pm 1.3$  s); (3) the turn at the highest position ( $3.2 \pm 1.2$  s); and (4) the return to the initial position ( $4.1 \pm 1.4$  s). The piezoelectric sensor and the SH electromyogram also detected characteristic temporal points that closely corresponded to the characteristic temporal points captured by the video. The advantages of using movies in swallowing research are discussed.

【論文紹介サイトのご案内】

全文 [PDF]

<http://www.informaworld.com/smpp/content~content=a911836625~db=all~jumptype=rss>

- Y. Miyaoka, I. Ashida, S. Kawakami, Y. Tamaki, and S. Miyaoka:

Activity patterns of the suprahyoid muscles during swallowing of different fluid volumes.

Journal of Oral Rehabilitation - March 10, 2010. (電子版)

[Summary]

Influences of bolus volumes on activity patterns of the suprahyoid muscles during swallowing were examined using the TP technique (which quantitatively evaluates muscle activity patterns and indicates a negatively skewed pattern at lower TP values) in healthy young adults (eight men and four women). One of six volumes of tea ranging from 10 to 32 mL was delivered randomly to each subject while recording an electromyogram of the suprahyoid muscles and a laryngeal mechanogram with a piezoelectric sensor. Each subject was asked to swallow the full volume of liquid in a gulp if possible. TP values were calculated as deciles from T0 to T100 during intervals that were defined by the trajectory of the laryngeal mechanogram recorded during swallowing. Seven significant differences were detected in the average TP values from T30 to T60: between 16 mL (e.g., 0.448 in T30) and 25 mL (0.408 in T30) and between 20 mL (0.453 in T30) and 25 mL. There were significant differences among the 12 subjects for all of the nine average TP values ( $P_s < 0.001$ ), suggesting a notable intersubject variation in the suprahyoid (SH) activity patterns. The

average peak amplitudes of the integrated suprahyoid activity differed significantly among the six volumes ( $P < 0.001$ ), while the average durations measured by the laryngeal mechanogram did not. The present results suggest that the swallowing volume mainly affects SH activity patterns, which were evaluated by the TP technique, during the early period of each swallow.

【論文紹介サイトのご案内】

全文 [PDF] <https://www.e-proof.sps.co.in/ja.asp?rfp=eeeyonaoka>

・福島伸一, 野口真紀子, 田口 洋, 野田 忠:

知的障害者の歯科診療に対する適応性の長期変化.

小児歯科学雑誌, 47: 453-459, 2009.

<要旨>

知的障害者の歯科診療への適応状態を、長期間に渡って良好に維持することは、障害者の口腔内の長期的な管理を行う上で重要である。我々は、知的障害者の歯科診療への適応状態について、その長期的な変化を調べる目的で、新潟県知的障害者総合援護施設「コロニーにいがた白岩の里」に入所している、最重度の知的障害者16名を対象に、歯科診療時の5つの状況において、行動評価を行った。その結果を、20年前に同様の基準で行った、初回調査の治療開始時から治療終了時までの歯科診療時の行動評価の結果と比較し、年代間での適応状態の比較および各個人の適応状態の経年変化を調べ、次のような結論を得た。

(1) 年数を経るに従い、「適応あり」と評価された者が、全ての状況で増加しており、特に本調査時で有意に増加した。また、経年的適応群（経年的に評価が良くなった群と、「適応あり」の評価のまま推移した群）は、全ての状況で増加していた。長期間の定期診査によって歯科診療に慣れてきたことと、増齢によって心身ともに落ち着いてきたことが、その理由として考えられた。

(2) 各々の状況で適応性の経年変化が異なっていた。治療台に寝て歯科治療を受けている間は、短期間で適応性が良くなりやすい状況であり、入り口から治療台までの間は、最も適応性が良くなりにくい状況であった。

【論文紹介サイトのご案内】

全文 [PDF] リポジトリ@新潟大学図書館で準備中

#### 4) 論文 (総説 overview)

【高次脳機能障害コース】

・杉下守弘、朝田隆:

高齢者用うつ尺度短縮版-日本版 (Geriatric Depression Scale-Short Version-Japanese, GDS-S-J) の作成について.

認知神経科学11(1): 125-127, 2009.

【論文紹介サイトのご案内】

全文 [PDF]

[http://www.jstage.jst.go.jp/browse/ninchishinkeikagaku/11/2/\\_contents/-char/ja/](http://www.jstage.jst.go.jp/browse/ninchishinkeikagaku/11/2/_contents/-char/ja/)

・ 杉下守弘 :

Alzheimer 病神経画像戦略 (ADNI) で用いられる認知症検査.

(特集「認知症診療マニュアル」 I. 総論・基礎編 4. 認知機能の検査法)

神経内科, 72(Suppl. 6): 93-99, 2010.

【掲載誌 (目次) 紹介サイトのご案内】

[http://www.molcom.jp/item\\_detail/49967/](http://www.molcom.jp/item_detail/49967/)

・ 杉下守弘 :

アルツハイマー病の国際共同臨床試験における認知症検査の翻案.

Psychiatry Today, 25: 23, 2010.

・ 岩田まな :

広汎性発達障害児の模倣について.

日本コミュニケーション障害学会誌, 26(2): 117-123, 2009.

【掲載誌 (目次) 紹介サイトのご案内】

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jacd/journal/index.html>

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jacd/journal/backnumber/26-2.pdf>

## 5) プロシーディングズ (Proceedings)

【摂食・嚥下障害コース】

・ 倉智雅子 :

シンポジウム 嚥下訓練の EBM—前舌保持嚥下法の EBM.

言語聴覚研究, 7: 31-38, 2010.

【掲載誌 (目次) 紹介サイトのご案内】

<http://www.igaku-shoin.co.jp/bookDetail.do?book=81388>



## 6) 文献紹介他

### 【高次脳機能障害コース】

#### ・ 杉下守弘 :

年齢に関連した記憶減退と APOEε4 効果についての縦断的モデル化.

(Caselli RJ, Dueck AC, Osborne D, et al:

Longitudinal modeling of age-related memory decline and the APOE epsilon4 effect.

N Engl J Med, 361:255-263, 2009.)

Cognition and Dementia, 9(2): 62-63, 2010.

### 【掲載誌 (目次) 紹介サイトのご案内】

[http://www.molcom.jp/item\\_detail/51438/](http://www.molcom.jp/item_detail/51438/)

## 7) 学会発表

### 【摂食・嚥下障害コース】

#### ・ 櫻井晶, 田村裕, 高橋圭三, 山崎暁, 高野美佐子, 山村千絵:

加齢に伴う舌体性感覚閾値の変化.

第 10 回日本言語聴覚学会,

倉敷, 2009. 6. 13-6. 14

プログラム・抄録集, p. 173

#### ・ 櫻井晶, 田村裕, 阿志賀大和, 山村千絵:

加齢に伴う舌体性感覚閾値と形状識別能の変化.

第 15 回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会,

名古屋, 2009. 8. 28

プログラム・抄録集, p. 255

#### ・ 田村裕, 櫻井晶, 阿志賀大和, 山村千絵:

健常成人における二種類の保湿剤が唾液分泌量に及ぼす効果.

第 15 回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会,

名古屋, 2009. 8. 28

プログラム・抄録集, p. 339

#### ・ 荒川高光, 三木明德, 相澤幸夫, 影山幾男, 熊木克治 :

橈骨動脈と尺骨動脈の分岐点を反回する筋皮神経と正中神経の間の交通枝.

第115回日本解剖学会全国学術集会, 盛岡, 2010. 3. 28 ~ 3. 30

解剖学雑誌 85( Supplement ): 130, March 2010.

- ・前田信吾, 相澤幸夫, 熊木克治, 影山幾男 :  
C7由来の鎖骨下筋神経の一例.  
第115回日本解剖学会全国学術集会, 盛岡, 2010. 3. 28 ~ 3. 30  
解剖学雑誌 85( Supplement ) : 130, March 2010.
  
- ・相澤幸夫, 前田信吾, 熊木克治, 影山幾男 :  
上殿皮神経と中殿皮神経の間を埋めるL4, 5後枝外側皮枝及びS1内側枝の皮枝について.  
第115回日本解剖学会全国学術集会, 盛岡, 2010. 3. 28 ~ 3. 30  
解剖学雑誌 85( Supplement ) : 131, March 2010.
  
- ・江玉睦明, 影山幾男, 熊木克治 :  
大腿四頭筋の神経支配様式について.  
第115回日本解剖学会全国学術集会, 盛岡, 2010. 3. 28 ~ 3. 30  
解剖学雑誌 85( Supplement ) : 131, March 2010.
  
- ・鈴木了, 稲吉祐樹, 菊地昭仁, 熊木克治, 影山幾男  
頸部一胸部浅層に出現した筋変異に対する形態形成学的考察.  
第115回日本解剖学会全国学術集会, 盛岡, 2010. 3. 28 ~ 3. 30  
解剖学雑誌 85( Supplement ) : 131, March 2010.
  
- ・時田幸之輔, 熊木克治, 影山幾男, 佐藤昇  
足立のC型腕神経叢に伴う腋窩動脈 (AxC) とその分枝の経路についての検討.  
第115回日本解剖学会全国学術集会, 盛岡, 2010. 3. 28 ~ 3. 30  
解剖学雑誌 85( Supplement ) : 131, March 2010.
  
- ・木村 幸, 巨島文子, 今田智美, 倉智雅子 :  
前舌保持嚥下の訓練効果について一施行前後のVF解析を試みた症例.  
第33回日本嚥下医学会,  
久留米, 2010. 2. 5-2. 6
  
- ・宮岡洋三、蘆田一郎、宮岡里美 :  
食品特性による咬筋活動パタンの分化.  
第51回歯科基礎医学会,  
新潟, 2009. 9. 27-28  
Journal of Oral Biosciences, 51: 153, 2009.

- ・宮岡洋三，蘆田一郎，岩森大，玉木有子，川上心也，宮岡里美：  
咬筋活動パタンの食品識別能。  
日本官能評価学会 2009 年度大会，  
東京，2009. 11. 28

### 【高次脳機能障害コース】

- ・佃 一郎：  
発達障害の診断－チェックリストから何を読み取るか。  
日本外来小児科学会，  
大宮，2009. 8. 29
- ・岩田まな，岩田光兒：  
言語発達における 2 つのストラテジー。  
第 35 回日本コミュニケーション障害学会，  
長岡，2009. 5.

### 【両コース共通】

- ・加藤豊広，宇津木努，平井顯徳，伊林克彦，山村千絵，的場已知子：  
CV4 テクニックの健康管理としての有用性。  
第 24 回日本保健医療行動科学会学術大会，  
神戸，2009. 6. 27-6. 28  
第 24 回日本保健医療行動科学会学術大会抄録集，p. 80，2009.
- ・加藤豊広，小内信，宇津木努，平井顯徳，伊林克彦，山村千絵，的場已知子：  
前腕の屈筋群への鍼施術が握力の両側性機能低下に及ぼす影響。  
第 13 回日本統合医療学会，  
東京，2009. 11. 21-11. 22  
第 13 回日本統合医療学会抄録集，p. 114，2009.
- ・丸茂大輔，宇津木努，平井顯徳，加藤豊広：  
吸角刺激による筋力への影響。  
第 31 回（社）東洋療法学校協会学術大会，  
京都，2009. 10. 8  
第 31 回（社）東洋療法学校協会学術大会抄録集，p. 52，2009.
- ・宇津木努，柿坂昌美，加藤豊広：  
腹部鍼通電療法を行った 1 症例の瘦身効果の検討。  
第 58 回全日本鍼灸学会学術大会講演集，

大宮, 2009. 6.12-6.14

全日本鍼灸学会雑誌, 59(3): 210, 2009.

## 8) 研究会発表

### 【両コース共通】

- ・加藤豊広, 佐藤泰子, 宇津木努, 平井顯徳, 伊林克彦, 山村千絵, 的場已知子:  
頭蓋仙骨治療 (Craniosacral therapy:CST) による禁煙支援の一例.  
第13回東洋オステオパシー協会総会臨床研究会,  
大阪, 2009. 12.6-12.7  
(東洋オステオパシー協会)OSTEOPATHI 会報, 12: 9-10, 2010.

## 9) 学会での講演、シンポジウム

### 【摂食・嚥下障害コース】

- ・倉智雅子:  
舌前方保持嚥下法(Tongue Holding Maneuver)のEBM.  
第10回日本言語聴覚学会 シンポジウム I 嚥下訓練のEBM,  
倉敷, 2009. 6.13-6.14
- ・倉智雅子:  
Thermal Tactile Stimulation.  
第15回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会: シンポジウム 5 嚥下手技を究める,  
名古屋, 2009. 8.28-8.29

### 【高次脳機能障害コース】

- ・杉下守弘:  
日本版 MMSE 短時間精神状態検査.  
第14回日本認知神経科学学会 特別企画 認知症テスト講習会(1) I,  
東京, 2009. 7.25-7.26

## 10) 研究会・研修会・公開講座等（学会以外）での講演

### 【摂食・嚥下障害コース】

#### ・熊木克治:

「横隔神経を調べよう」「腹膜の理解」

特別講義、解剖学実習指導：日本歯科大学生命歯学部（東京）2009. 6. 22

#### ・熊木克治:

「鼓索神経とは」「足立Adachi C 型を探ろう」

特別講義、解剖学実習指導：日本歯科大学生命歯学部（東京）2009. 6. 29

#### ・熊木克治:

「頸も胴体である」

特別講義、解剖学実習発表討論指導：埼玉医科大保健学科 2010. 1. 18

#### ・熊木克治:

「ヒトの一生 ヒトはどこからやってきたか ― 体節」

特別講義、解剖発生学講義：日本歯科大学新潟生命歯学部 2009. 10. 22

#### ・熊木克治:

「ヒトの一生 ヒトはどこからやってきたか ― 鰓弓」

特別講義、解剖発生学講義：日本歯科大学新潟生命歯学部 2009. 10. 29

#### ・熊木克治:

「ヒトの体は二重の筒 ― 人体の基本構造」

特別講義、解剖学：新宿鍼灸柔整専門学校 2010. 2. 1

#### ・熊木克治:

「解剖学実習」

解剖学実習指導：日本歯科大新潟生命歯学部 2009. 10. 1 ～ 2010. 1. 29

体解剖学実習の指導（客員教授、毎週木、金曜の午後 30回）

#### ・野田 忠:

世界の食べ物.

新潟大学教養科目：新潟発『食べる』,

新潟（新潟大学）, 2009. 7. 17

- ・ 野田 忠:  
小児患者の対応.  
講義科目: 小児歯科学,  
新潟 (新潟大学歯学部), 2010. 1. 7
  
- ・ 野田 忠:  
ケースへの対応.  
新潟家庭裁判所「聴こう語ろう会」,  
新潟, 2009. 9. 24
  
- ・ 倉智雅子:  
神経疾患の音声治療: LSVT.  
第 54 回日本音声言語医学会ポスターセッション,  
福島, 2009. 10. 17
  
- ・ 真貝富夫:  
嚥下誘発の神経機構とのだ越しの感覚.  
第 26 回大分嚥下音声言語研究会: 特別講演,  
大分 (大分県医師会館), 2009, 7. 19
  
- ・ 真貝富夫:  
味の不思議・のだ越しの味.  
新潟リハビリテーション大学院大学地域公開講座,  
村上, 2009, 11. 27
  
- ・ 宮岡里美:  
誤嚥、窒息事故の予防と対策.  
(医) 青松会 松浜病院: 全体研修会,  
新潟, 2009. 9. 16
  
- ・ 宮岡里美:  
精神科における摂食・嚥下障害の特徴とその対応.  
(医) 青松会 松浜病院: 全体研修会,  
新潟, 2010. 1. 20

## 【高次脳機能障害コース】

- ・ 佐藤舜也:

腰痛について.

新潟県中途視覚障害者連絡会総会,

新潟, 2009. 11. 29

- ・ 佃 一郎:

療育プログラムの基本とねらい.

立川市立心身障害児通園施設ドリーム学園: 父親参観日講演,

東京, 2009. 6. 20

- ・ 佃 一郎:

父親の役割・子どもへの対応.

国分寺市立こどもの発達センターつくしんぼ: 親子宿泊訓練講演,

東京, 2009. 7. 4

- ・ 佃 一郎:

家族の役割.

立川市立心身障害児通園施設ドリーム学園: 夏季親子宿泊訓練講演,

東京, 2009. 7. 11

- ・ 佃 一郎:

てんかん症候群について.

国立市あさがお作業所職員研修講演,

東京, 2009. 9. 3

- ・ 佃 一郎:

父親の役割.

国分寺市立こどもの発達センターつくしんぼ: 父母会講演会,

東京, 2009. 10. 26

- ・ 佃 一郎:

食育とは.

高峰福祉会研修会講演,

東京, 2009. 11. 22

・ 佃 一郎:

見る力ー見せ方の工夫から.

立川市立心身障害児通園施設ドリーム学園: ゆめ祭講演 (一般公開),  
東京, 2009. 11. 28

・ 佃 一郎:

療育における教材の活かし方.

障害児療育研究会講演,  
東京, 2010. 2. 6

・ 岩田まな:

脳と記憶ー学生の特徴に合わせた学習方法ー.

大阪医療技術学園専門学校講師会議講演,  
大阪, 2009, 8.

・ 岩田まな:

小児の高次脳機能障害.

大阪医療技術学園専門学校言語聴覚学科,  
大阪, 2009, 8.

【両コース共通】

・ 小内 信, 加藤豊広:

皮内鍼について.

鍼灸新潟月例研修会,  
新潟, 2009. 9. 13

## 11) 科学研究費

### 科学研究費 (主任研究者) 申請

- ・ 基盤研究 (C) (文部科学省)      1 件
- ・ 挑戦的萌芽研究 (文部科学省)      3 件



## 12) 学位（修士）論文指導

### 【摂食・嚥下障害コース】

・山村千絵

伊藤 晃：

アロマオイルのニオイ刺激による唾液分泌促進効果

ーブラックペッパーオイルとカルダモンオイルの場合ー

#### <要約>

唾液は、味覚の発現や消化に関与し、さらに口腔諸器官の運動を円滑にするなど、咀嚼から嚥下のすべての過程において重要な役割を担っている。臨床では、唾液分泌が少ない患者さんに対して、唾液腺や口腔粘膜のマッサージをしたり、舌・顎・口唇の運動を行わせたりして、唾液分泌を促している。しかし、これらの方法は患者さんの高次脳機能が比較的良好な場合にしか適応できない。本研究では、指示に従ったり開口したりすることが困難な患者さんにも容易に適応できるニオイ刺激を利用できないかと考え、アロマオイルのニオイ刺激による唾液分泌促進効果を調べることを目的に実験を行った。

被験者はアレルギー疾患を有しておらず、唾液腺疾患や口腔乾燥症状がなく、かつ異嗅症や嗅覚障害を有していないことをスクリーニング検査で確認できた健康な成人男女43名（男性18名、女性25名、平均年齢±標準偏差=21.8±1.2歳）とした。

ニオイ刺激の試料はアロマオイル100%の原液を用い、ブラックペッパーオイル（Black Pepper Oil以下BP0と略す）、カルダモンオイル（Cardamon Oil以下C0と略す）、そして無臭対照試料のホホバオイル（Jojoba Oil以下J0と略す）の3種類とした。アロマオイルはスティック状のムエットに塗布し、被験者の鼻孔の前30mmの位置に提示し、通常呼吸によりニオイを吸引させた。ニオイを嗅いでいる間の唾液分泌量を30秒間ワッテ法にて4回ずつ測定し、その平均値を測定値とした。認知的要因が唾液分泌に影響を及ぼす可能性を排除するため、ニオイ試料の名前の開示は実験終了後に行った。

その結果、安静時（実験Ⅰ：0.111±0.014(g)，実験Ⅱ：0.130±0.020(g)）やJ0刺激時（0.118±0.018(g)）に比べ、BP0刺激時（実験Ⅰ：0.164±0.021(g)，実験Ⅱ：0.175±0.026(g)）やC0刺激時（0.182±0.026(g)）に唾液分泌量が有意に増加した。BP0刺激時とC0刺激時を比べた場合、唾液分泌の増加量に有意差はなかった。また、男性と女性による増加量の差はなかった。

BP0は島皮質を活性化し嚥下反射の潜時を短縮することが、すでに明らかになっており、BP0のアロマパッチは嚥下リハビリテーションの臨床に応用されている。さらに本研究によりBP0やC0には唾液分泌促進効果があることが確認された。今後はニオイ刺激の頻度や期間を変えたりして、さらに精査していくことにより、BP0やC0を、口腔治療の場に新しい手法で応用していくことも可能であると考えられる。

## 【高次脳機能障害コース】

### ・杉下守弘

上杉文都:

アルツハイマー病における心理検査の問題点.

<要約>

米国のアルツハイマー病神経画像戦略 (Alzheimer's Disease Neuroimaging Initiative ;ADNI) で健常者 (NL)、軽度認知障害 (MCI)、アルツハイマー病 (AD) の分類は、MMSE、CDR、Logical Memory II を使用している。心理検査の基準をみると、MMSE 24-26 点、CDR 0.5、Logical Memory II 教育歴 16 年以上は 8 点以下、教育歴 8-15 年は 4 点以下、教育歴 7 年以下は 2 点以下で得点範囲が重なっている部分がある。得点範囲が重なっており MCI と AD に分類できないものを調べると 210 名いることが分かった。

しかし、ADNI ではこれらの得点範囲のものは MCIAD として分類されているのではなく、MCI か AD のいずれかに分類されている。そこで、明確に MCI、AD を分類するために視空間機能、言語機能、注意/実行機能、日常生活機能の検査を分析することで、MCIAD-MCI 群、MCIAD-AD 群を分類する方法がないか検討した。まず神経心理検査について NL 群、MCI 群、MCIAD-MCI 群、MCIAD-AD 群、AD 群の平均値と標準偏差、得点範囲を比較したが分類することはできなかった。次に生活機能検査について、MCIAD-MCI 群と MCIAD-AD 群の平均値、得点範囲を比較しても分類することはできなかった。認知領域の欠損個数を比較したが MCI 群、MCIAD-MCI 群、MCIAD-AD 群、AD 群とも同様の認知領域の欠損個数であった。

NL 群、MCI 群、MCIAD-MCI 群、MCIAD-AD 群、AD 群を比較検討した結果、MCIAD-MCI 群、MCIAD-AD 群を神経心理学検査・生活機能検査では明確に分類することができなかった。MCI と AD の診断基準を比較すると、認知機能・日常生活機能が分類のポイントであるが、検査結果を分析すると MCI でも、認知機能・日常生活機能で何らかの障害が起こっていることが考えられる。3 つの神経心理検査で得点範囲が重なっているものは、明確の基準で MCI と AD に分類する方法はなかった。現時点では NL 群、MCI 群、AD 群の 3 群には分類できないので、NL 群、MCI 群、MCIAD 群、AD 群の 4 群に分類するほうがより症状の把握に有効であると考えられる。今後、NL 群、MCI 群、AD 群を明確に分類できる有効な評価方法を開発する必要がある。

## 13) その他

### (1) 学会等での座長

#### 【摂食・嚥下障害コース】

### ・倉智雅子:

第 15 回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会 訓練 1.

名古屋, 2009. 8. 28-8. 29

## (2) 学会、研修会、公開講座等の主催

### 【摂食・嚥下障害コース】

- ・影山幾男、佐藤昇、熊木克治

第3回肉眼解剖学セミナー新潟

「頸部の局所解剖学 ― 腋窩・上肢、顔面・頭部への発展」

側頸部の局所解剖学と形態形成の原則追究を進めるが、それぞれの解剖所見や興味によって問題点を広げ発展させる。

川崎医大、神戸大医、東京医大、東京歯科大、埼玉医大、新潟県立看護大、日本歯科大新潟などから合計26名参加

日本歯科大学新潟生命歯学部病院地下1階解剖学実習室にて

2009. 8. 10 ～ 8. 21

- ・倉智雅子：

LSVT®LOUD 認定講習会主催.

村上, 2010. 8. 22-8. 23

### 【高次脳機能障害コース】

- ・伊林克彦, 山崎 暁：

第14回 新潟神経・言語障害学セミナー（講師：矢守麻奈先生，本村暁先生）.

村上（岩船広域教育情報センター），2009. 8. 1-8. 2

### 【両コース共通】

- ・加藤豊広：

第25回日本保健医療行動科学会学術大会 企画実行委員.

2009. 9. 10 ～ 2010. 6. 30

## (3) 学会誌の企画

### 【高次脳機能障害コース】

- ・岩田まな：

企画：特集「広汎性発達障害－自閉性障害を考える－」.

日本コミュニケーション障害学会誌, 26(3), 2009.

#### (4) 寄稿文

##### ・熊木克治：

新潟日報：“窓”投稿コラムへの掲載

- 「アカデミックドレスに心新た」 2009. 4. 2
- 「桜に草もち 春を感じた日曜日」 2009. 5. 3
- 「表情豊かな海沿いの道楽しむ」 2009. 6. 27
- 「チョウと葉 自然の摂理に感動」 2009. 7. 30
- 「リハビリ施設 一層の充実望む」 2009. 9. 16
- 「水産研究所の仕事ぶりに敬意」 2009. 10. 21
- 「プロの農家を作る野菜に感激」 2009. 11. 10
- 「高齢の母と昔のように柿採り」 2009. 12. 3
- 「自己流家庭菜園に反省の年末」 2010. 1. 9
- 「“ヒポクラテスの木 “ 成長願う」 2010. 2. 9
- 「ヤツメの干物が講義で大活躍」 2010. 3. 8

### 注：掲載について

1. 本学の専任教員、大学院生及び研究生の氏名にアンダーラインが引いてあります。

2. 配列順序については以下の通りです。

① 掲載項目は、以下の順です。

著書

訳書

論文（原著 original）

論文（総説 overview）

プロシーディングズ（Proceedings）

学会誌への文献紹介

学会発表

研究会発表

学会での講演、シンポジウム

研究会・研修会・公開講座等（学会以外）での講演

科学研究費（主任研究者）申請（件数）

学位（修士）論文指導

その他

- ・ 学会等での座長
- ・ 学会、研修会、公開講座等の主催
- ・ 学会誌の企画

② 各項目内の配列順序は、摂食・嚥下障害コース、高次脳機能障害コース、両コース共通の各所属教員の業績の順です。

③ 各コース内の配列順序は、業績の筆頭者が本学関係者（専任教員、大学院生及び研究生）である場合、それ以外である場合としました。また、その項目内では、英文業績、和文業績の順です。各言語内では教員の職位順です。

④ 各教員内の配列順序は、発表年月日の古いものから新しいものへの順です。

⑤ 論文（原著 original）については、要旨を記載しました。また、当該論文が公表されているサイトも紹介しています。

⑥ ⑤以外の論文等については、掲載されている雑誌（目次）を紹介しているサイトを紹介しています。

## 9. 研究費

### 学内研究費一覧

共通教育・研究費

コース別教育・研究費

教員 1 人当たり研究費	300 千円
コース研究費（摂食・嚥下障害コース）	1,000 千円
コース研究費（高次脳機能障害コース）	1,000 千円
設備購入費	12,480 千円
図書購入費	11,657 千円

## 10. 図書館

### 1) 蔵書

	和書	洋書	計
書籍（冊）	20,236 冊	1,217 冊	21,453 冊
雑誌（種）	31 種	13 種 (内 電子ジャーナル 8 種)	44 種

2010 年 4 月 1 日現在

## 1 1. 学生関係

### 1) 学生定員

コース名	入学定員	収容定員	
高次脳機能障害コース	12名	24名	計 48名
摂食・嚥下障害コース	12名	24名	

### 2) 入学者選抜

#### (1) 募集人員

##### 平成 21 年度募集人員

コース名	募集人員		備考
高次脳機能障害コース	12名	24名	
摂食・嚥下障害コース	12名		

##### 平成 22 年度募集人員

コース名	募集人員		備考
高次脳機能障害コース	12名	24名	
摂食・嚥下障害コース	12名		



## (2) 入学選考試験実施状況

### 平成 21 年度入学選考試験

	出願期間	入学選考試験	合格発表
第Ⅰ期	平成 20 年 9/ 8 ～ 9/17	平成 20 年 9 月 27 日(土)	平成 20 年 10 月 3 日(金)
第Ⅱ期	平成 20 年 10/27 ～11/ 5	平成 20 年 11 月 15 日(土)	平成 20 年 11 月 21 日(金)
第Ⅲ期	平成 20 年 1/ 5 ～ 1/14	平成 21 年 1 月 24 日(土)	平成 21 年 1 月 30 日(金)
第Ⅳ期	平成 21 年 2/23 ～ 3/ 4	平成 21 年 3 月 14 日(土)	平成 21 年 3 月 18 日(水)
第Ⅴ期	平成 21 年 3/18 ～ 3/27	平成 21 年 3 月 31 日(火)	平成 21 年 4 月 1 日(水)

### 平成 22 年度入学選考試験

	出願期間	入学選考試験	合格発表
第Ⅰ期	平成 21 年 9/ 7 ～ 9/16	平成 21 年 9 月 26 日(土)	平成 21 年 10 月 2 日(金)
第Ⅱ期	平成 21 年 10/26 ～11/ 4	平成 21 年 11 月 14 日(土)	平成 21 年 11 月 20 日(金)
第Ⅲ期	平成 22 年 1 / 4 ～ 1/13	平成 22 年 1 月 23 日(土)	平成 22 年 1 月 29 日(金)
第Ⅳ期	平成 22 年 2/22 ～ 3/ 3	平成 22 年 3 月 13 日(土)	平成 22 年 3 月 17 日(水)
第Ⅴ期	平成 22 年 4 / 1 ～ 4 / 7	平成 22 年 4 月 10 日(土)	平成 22 年 4 月 12 日(月)

## 3) 在籍学生数 (平成 22 年 3 月 31 日現在)

コース名	在籍学生数		合計
	1 年生	2 年生	
高次脳機能障害コース	2 名	3 名	1 2 名
摂食・嚥下障害コース	4 名	3 名	

## 4) 学生生活

### (1) オリエンテーション実施状況

日時：平成 21 年 4 月 4 日（金） 13:00 ～15:00

場所：本学 サロン教室

内容：1，資料等配布 ①学生証 ②学生便覧 ③シラバス ④時間割

⑤修士論文関係要綱 ⑥その他

2，教職員参加者・学生 自己紹介

3，学生生活について

4，履修説明 ①講義・実習等に関する履修方法について

②修士論文作成について

5，今後のスケジュール概要

6，図書室利用について

7，その他

8，校内見学 ①利用のきまり説明

②校内見学

③学生研究室個人席決定

9，研究相談会 15:00～16:00

### (2) 奨学生

コース名	奨学金利用状況		合計
	1 年生	2 年生	
摂食・嚥下障害コース			
日本学生支援機構	—	1 名	1 名
その他の奨学生	—	—	—

コース名	奨学金利用状況		合計
	1 年生	2 年生	
高次脳機能障害コース			
日本学生支援機構	—	1 名	1 名
その他の奨学生	—	—	—

発行  
有限会社  
いわふね新  
発行責任  
大 滝  
郵便番号 958  
村上市市町  
TEL 0254(5)  
FAX 0254(5)  
sunday-iwaf  
camel.pla

印刷  
株式会社  
郵便番号 958  
村上市市神  
TEL 0254(5)  
FAX 0254(5)

タクシー  
使うな

藤観光タクシー

50-5050  
村上市藤沢51-1

誠意と  
真心

625450-77  
http://hananasi123.blog112  
〒958-0854  
新潟県村上市田端町2番20号村上総合

## 学部新設4月いよいよ開学

新 潟  
リハビリ大学 一般にも公開10日記念イベント

3年前に圏域初の大学として大学院から開校した新潟リハビリテーション大学(大澤源吉学長、村上市上の山)が、「新潟リハビリテーション大学」として学部を新設、4月にいよいよ開学する。地元合唱団なども参加する開学記念イベントは地域住民にも開放され、一般向けの公開講座も引き続き企画されるなど、地域密着型の大学として運営される方針だ。

医療学部を卒業すれば 家庭試験受験資格のほか、  
学士の学位、各専攻の国 任意で認定心理士の資格



4月10日の開学記念ミュージカルに向け地元2団体が合同で練習に励んでいる=13日

取得も可能。専門学校卒の「高度専門士」では、大学院への進学は可能なものの、就職し現場を経た後に教育職や管理職を目指すことが現実的には難しい。学部設置の背景としてはほかに、大学全入時代を迎え専門職でも学士が前提となりつつある中、いわゆる「就職予備校」の役割が専門学校から学部へとシフトしているという実情もある。

定員は2専攻各40人で、志願状況について広報担当によれば、最終倍率は1倍強となる見込み。「文科省に認可を受

## 「活動他県へも広め協力を」 県への要望を報告

命を守るC型  
肝炎村上支部

先月25日、「C型肝炎患者の一律救済」を求める要望書を県に提出した

「命を守るC型肝炎新編の会」(和田三夫代表)の村上支部(板垣隆三支部長、22人)が14日、県への要望活動などの報告会をクリエート村上(村

なかったとする。地方大学の生き残り競争が一段と厳しさを増す中で、同大は専門教育の強化とともに地域に密着した学校づくりにも注力、地域公開講座の開設や学生の岩船大祭への参加協力など地域との交流を図っている。宮岡里美准教授は「学生と地域、双方が互いに誇りを持ち合えるような学校としていければ」と語る。その一環として4月10日、開学記念のミュー

シカルを市民ふれあいセンターで開催。公演は世界的に活躍するスペイン出身のダンサー、フランシスコ・ザビエル・ギジエンさんが演出、振り付けを手がけ、地元の大湊舞踊研究所と村上混声合唱団の総勢約100人が共演する。同舞踊研究所の大湊千津子代表は「舞台と客席が一体となったものになる。舞台上に立つ子供たちにとってもいい経験になると思う」と話していた。

荒川の

2ヵ月ゲルマニウム岩盤体験を募集  
村上市坂町にあるNPO「長では、低体温改善モニターを募集している。

での2ヵ月間でゲルマニウム岩盤浴を10回体験。条件は①低体温による不調や冷え、こらえの訴え

を服用していない人④期間中午前9時半~午後3時半までの時間で、週に1~2回出席可能(月曜)

参加費3,000円(10回)で定員20人。問い合わせは、ヨシノミヤビル

を募ることも要望。14日は、神保副知事がそれらを了承したということな

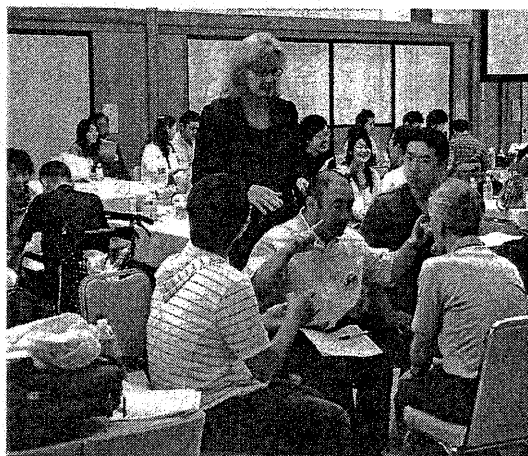
事務

都圏の女子大生ら(中央)も交代で大蛇を担いでパレードを行った



新潟リハビリテーション  
シヨン大学院大学

村上市上の山の新潟  
リハビリテーション大  
学院大学が8月22日と  
23日、汐美往て米国の  
リハビリ訓練方法「L  
SVT」の施行認定講  
習会を開催。国内では  
初の講習会となるもの  
で、全国の医療機関か  
ら105人の言語聴覚  
士が新たな知識を得よ  
うと村上を訪れた。  
発声発語の明瞭度を  
改善する「LSVT」  
はパーキンソン病患者  
の発話改善に特に効果  
的とされる訓練方法  
で、これまで国内の言  
語聴覚士が認定講習を  
受けるには海外へ行か  
なければならず、国内



考案者の直接指導のもと、患者に施行する受講者

## 全国の言語聴覚士村上へ 国内初「LSVT」講習会

の認定取得者もこれまで  
10人ほど。今回は国内で  
考案者のL・ラミグ教授  
とC・フォックス教授が  
ら直々の手ほどきを受け  
授の直接講義を受けた受

が込められた同書は、執  
筆に9年を費やした26  
0の超の労作だ。  
「執筆当初はタイトル  
の通り、自分の子どもた  
ちへ何か残すつもりで書  
いていたが、筆が進むと  
ちに、このメッセージの  
中身は誰にでも当てはま  
ることなのではないかと  
考えるようになっていっ

## 「幸せの世の

関川村大島「子供への手紙」刊行  
佐藤勝利さん

た」と佐藤さん。そのメ  
ッセージの核となるのは  
「幸運は選ぶことができ  
ないが、幸せは選ぶこと  
ができる」という思いだ。  
「私自身、何もないゼ  
ロの状態から豊かになっ  
てきたが、いざという  
時代を迎えてみると  
『豊か』『幸せ』とは限ら  
ないことに気付いた」と  
し「しっかりとしたもの  
の具方、捉え方を習得し、

自分にとって幸せとは何  
なのかを見極めることが  
重要。そういった考えが  
読む人にも伝われば」と  
語る。  
また同時に同書は、  
刻々と変化する時代の中  
で事業を軌道に乗せるべ  
く無難苦闘する佐藤さん  
自身の姿と、そこで得た  
教訓が赤裸々に描かれ、  
同じように日々格闘する  
経営者への助言集として  
の側面も持つ。佐藤さん

## 大したもん蛇まつり

甲子園熱気に負けず「蛇行」  
首都圏の大学生100人も支え

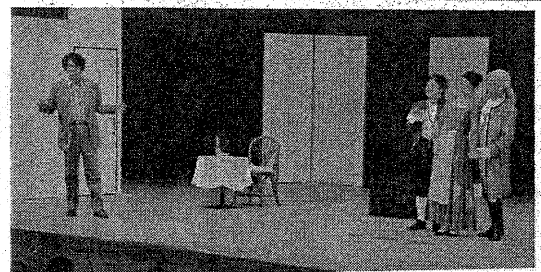
熱気は甲子園以上。  
22回目となった関川村の  
「大したもん蛇まつり」  
が8月28日と29日に開催  
され、ギネス認定の「長  
き世界」のワラ製大蛇  
がこしも226人の担  
ぎ手によって村内8キロを  
練り歩いた。  
午前9時半、スタート  
地点の湯沢の特別養護老  
人ホーム「垂水の里」前

講者らはその後認定試験  
に臨み、午後からはグル  
ープに分かれて実際のボ  
ランティア患者に対して  
実習訓練を施行。約1時  
間の訓練を終え患者が  
次々に成果を発表すると、  
その度に会場からは拍手  
や驚きの声があがった。  
東京都から訪れた杏林  
大学医学部付属病院の中  
山剛志さん(四〇)は「国内  
では待ちに待った開催。  
今回実際に受講したこと  
を、現場や後輩の指導に  
生かしていきたい」と充  
実した表情で語り、全国  
パーキンソン病友の会の  
齋藤博会長(五七)は「今回  
の講習会で国内の認定者  
が大幅に増加する。発話  
改善を望む会員にとって  
非常に有意義」と期待を  
込めていた。

## オペラ「演

「夏の音楽祭」600火超

村上市蒲萄出身の大滝  
雄志武蔵野音楽大学教授  
の門下生に、園城2中学  
の音楽部生徒や一般コー



大滝教授(左)がオペラの演

リが関川村出身と知  
り、日本文理を応援した  
という、同学生協会の関  
川村訪問プロジェクト委  
員長を務めた国士館大学  
法学部4年生の柿沼希と  
ん(三三)埼玉県熊谷市出  
身は「関川村の魅力は  
人の温かさ。活動を通じ  
てその良さを後輩に言葉  
で伝えていってほしいだ  
い」と大蛇を担いでいた。  
また大蛇パレードには  
関川中の1年生57人、三  
条市の目下田村のまつり  
同好会16人、自衛隊新発  
田駐屯地の10人なども参  
加し、約1.5キロを歩



2007年に開学した新潟リハビリテーション大学院大学(村上市上の山)が今春、初の修了生を輩出。村上市民ふれあいセンターで3月19日、修了生2人の学位授与式を同専門学校1期生101人の卒業証書授与式とともに行った。

修士となったのは、リハビリテーション研究科を修了した櫻井晶さん(21)と田村裕さん(21)。アカデミックカウンとフィードをまとって式に臨んだ2人は壇上で学位帽を戴帽され、大澤源吾学長から学位記を受け取った。大澤学長は「学位の重みをしっかりと受けとめ、常に病む人の杖となつてほしい」と激励。そのほか学生会が制作したビデオレターの上映や、同校学生もメンバーに加わる地元サークル、村上混声合唱団の合唱も行われ、門出を祝した。

長野県内の病院に言語

### 出場者は過去2番目 小熊副知事も10人に

きょう笹川流れマラソン

23回目となる「笹川流れマラソン」(村上市なご主催)がきょう5日、山北地区の桑川を発着点とした海沿い国道345号のコースで開催される。ハーフ、10キロ、3キロ(中・小学生)を合わせたエントリーは過去2番目に多い2,343人。鹿角市から秋田県まで19都府県のランナーがゴールを目指す。

今回からハーフのゴール制限を3時間以内と拡大したところあって、同部門への申し込みは112

### 病む人の杖となつて…

## 初の修了生2人「ガウンの意味重い」

●新潟リハビリ大学院大学●

聴覚士として勤務した後1期生として同大学院に入学した櫻井さんは、摂食・嚥下障害についての研究を進めこの日を迎える「ガウンはいろいろな意味で重い」とし、「助手として大学院に残り、研究と専門学生の指導を続ける予定。研究と教育に励んでいきたい」と意気込んでいた。



ガウンをまとって式に臨む修了生2人

## スロー食で新たな

### 山北地区で地域づくり楽習会

村上市のさんぽく会館で3月15日、「魅力ある集落づくり楽習会」が開かれ、山北地区の住民約70人が講演に聞き入り、意見交換などを行った。旧山北町で平成2年度から始まった地域づくり事業で、48集落でさまざまな活動を展開し、これまでに678事業を行っているもので、3団体の代表が事例発表を行った。

講演では民俗研究家の結城登美雄さんが「スローフードから広がる新たな連携」をテーマに、全国各地で食を生かした地

### 表彰で一年間

村上市地区スポーツ少年団の1年間の活動を締めくくると「優秀団員表彰式」が3月20日、村上体育館で開かれ、保護者が見守る中、下越地区以上の大会で入賞を果たした優秀選手賞3団体、同個人29人を表彰したほか、1年



2008年4月11日 金屋小の桜ライトアップ

ふるさと新・歳時記

卯月 4月

ともに散る思想  
いまだ白へり  
城山に少年の頃  
ハンカチと畳  
遠坂曲がりなれ

発行所  
有限会社  
いわふね新聞社  
発行責任者  
大滝 薫  
郵便番号 958-0864  
村上市肴町 4-19  
TEL 0254(50)7231  
FAX 0254(50)7232  
sunday-iwafune@  
camel.plala.or.jp

印刷所  
㈱フォト・スタンプ新潟  
郵便番号 958-0803  
村上市天神岡381  
TEL 0254(53)0600  
FAX 0254(52)4300

村上市古渡路出身の稲葉菜さんが1期生代表として宣誓した



圏域初の大学として3年前に開学し、今年度から新たに学部を新設した新潟ハビリテーション大学(村上市上の山)の医療学部1期生の入学式が9日、村上市民ふれあいセンターで開催された。

圏域出身  
5人入学

新潟リハビリ大学が開学

医療学部へ54人勉学誓い

同大は昨秋に学部設置の認可を受け、医療学部リハビリテーション学科の学生を募集。初年度となる今年度は80人が受験し、理学療法専攻に44人、言語聴覚専攻に10人の計54人が入学した。

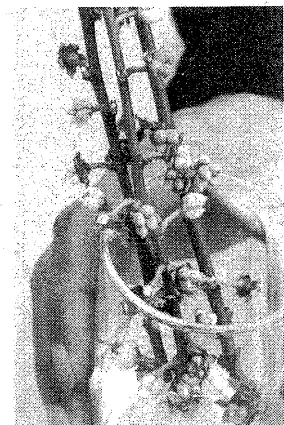
うち圏域出身者は5人。式では新入生ひとりひとりの名前が読み上げられ、着慣れないスーツに身を包んだ本人たちは緊張の面持ちでそれぞれ起

立し返事。大澤源吾学長は「高齢化社会を迎えた日本だけでなく海外でもリハビリ技術・知識の需要が高まりを見せている現在、諸君はリハビリ界の坂本龍馬となつてほしい」と呼び掛け、稲葉大和・元文部科学副大臣、片野猛稟議、大滝平正村上市長らもそれぞれ新入生宣誓では、理学療法専攻で地元村上市古渡路出身の稲葉菜さん(21)が「教育理念の『人の心の杖であれ』を常に意識して勉学に励み、社会に貢献できる立派な人間となることを誓います」と約束した。また翌10日は同会場で、開学記念イベントとしてミュージカルの上演が一般に開放された。

還暦祝い？八房梅発見  
盆栽に「越後七不思議」が

荒川上鍛冶屋 玉木さん宅  
村上市鍛冶屋の玉木修一さん(55)宅で育てられている盆栽の梅の木が花ひとつあたり3、4つの実を付け、家族を驚かせている。

梅の木は20年以上前に修一さんの父が持ち帰った。この梅は「越後七不思議」の八房梅だといわれている。



ひと花あたり3、4つの実をつけている玉木さん宅の梅

県森林研究所の松本則行研究員は『牧野新日本植物図鑑』に記載がある八房梅だといわれている。

県内では浄土真宗の宗祖・親鸞にまつわる伝説「越後七不思議」のひとつ、阿賀野市の「八重のつばき」同様、村上市民の

金、銀のキツネと太鼓鮮やか

瀬波温泉  
コンコン祭り

巡行屋台新調25日に披露

今年20日に行われる瀬波温泉の「コンコン祭り」で巡行する屋台がこのほど新調された。村上市小国町の旧七ヶ屋台の土台を譲り受けて制作された

もので、金、銀2匹のキツネと太鼓をモチーフにした乗せ物も鮮やかな屋台となった。

瀬波温泉連絡協議会(浅野謙一会長)が積立最終的に岩船上浜町の初



え、組みたてられた  
鮮やかだ

瀬一美さんがデザイン。太鼓には瀬波の夕景と温泉橋が描かれ、太鼓の胴の部分も正面から見ると櫓の形となる。

11日には制作業者と関係者が集まり、瀬波温泉観光案内センターの駐車場で組み立てテストを実施。瀬波温泉1、2区の木ノ瀬修平区長は「温泉地に見合った立派な屋台になった」と満足そうに話し、浅野会長は「地域の総意と情熱のたまもの。オリジナリティーあふれるものになったと目を細めていた。

タクシーを使うなら

村上タクシー  
53-2138  
村上市田端町11-8  
藤観光タクシー  
50-5050  
村上市藤沢51-1

はまなす観光タクシー  
0254-50-7788  
http://hamanasu23.blog112.fc2.com/  
T 090-0808-4  
新潟県村上市田端町2番20号(村上総合病院となり)

■ 新潟リハビリテーション大学ホームページ <http://www.nur.ac.jp>

---

新潟リハビリテーション大学院大学  
平成 21 年度「年報」(第 3 号)

平成 22 年 11 月 22 日印刷

平成 22 年 11 月 25 日発行

年 1 回発行 (非売品)

編集発行

〒958-0053 新潟県村上市上の山 2-16

新潟リハビリテーション大学

電話 0254(56)8292

FAX 0254(56)8291

編集者 新潟リハビリテーション大学院大学  
評価委員会

---